

参考資料1－5

厚生労働省発生食 1107 第1号
令和4年11月7日

薬事・食品衛生審議会
会長 太田 茂 殿

厚生労働大臣 加藤 勝信
(公 印 省 略)

諮問書

食品衛生法（昭和22年法律第233号）第13条第1項の規定に基づき、下記の事項について、貴会の意見を求めます。

記

1 次に掲げる農薬等の食品中の残留基準の設定について

動物用医薬品イソシンコメロン酸二プロピル
動物用医薬品ジミナゼン
動物用医薬品ピリメタミン
動物用医薬品マホプラジン
農薬・動物用医薬品イソプロチオラン
農薬ジエトフェンカルブ
農薬バリダマイシン
農薬ピリダクロメチル
農薬メトプロムロン

以上

令和4年11月7日

食品衛生分科会

分科会長 村田 勝敬 殿

薬事・食品衛生審議会

会長 太田 茂

農薬等の食品中の残留基準の設定について（付議）

標記について、下記のとおり厚生労働大臣から諮問があったので、薬事・食品衛生審議会規程第2条の規定に基づき、貴分科会において審議方願いたい。

記

令和4年11月7日付け厚生労働省発生食1107第1号

1 次に掲げる農薬等の食品中の残留基準の設定について

動物用医薬品イソシンコメロン酸二プロピル

動物用医薬品ジミナゼン

動物用医薬品ピリメタミン

動物用医薬品マホプラジン

農薬・動物用医薬品イソプロチオラン

農薬ジエトフェンカルブ

農薬バリダマイシン

農薬ピリダクロメチル

農薬メトブロムロン

以上

令和4年11月7日

農薬・動物用医薬品部会

部会長 穂山 浩 殿

食品衛生分科会

分科会長 村田 勝敬

農薬等の食品中の残留基準の設定について（付議）

標記について、令和4年11月7日付けの付議をもって下記のとおり薬事・食品衛生審議会会長から付議があったので、食品衛生分科会規程第7条の規定に基づき、貴部会において審議方願いたい。

記

1 次に掲げる農薬等の食品中の残留基準の設定について

動物用医薬品イソシンコメロン酸二プロピル

動物用医薬品ジミナゼン

動物用医薬品ピリメタミン

動物用医薬品マホプラジン

農薬・動物用医薬品イソプロチオラン

農薬ジエトフェンカルブ

農薬バリダマイシン

農薬ピリダクロメチル

農薬メトブロムロン

以上

バリダマイシン

今般の残留基準の検討については、農薬取締法（昭和23年法律第82号）に基づく適用拡大申請に伴う基準値設定依頼が農林水産省からなされたことに伴い、食品安全委員会において厚生労働大臣からの依頼に伴う食品健康影響評価がなされたことを踏まえ、農薬・動物用医薬品部会（以下、「本部会」という。）において審議を行い、以下の報告を取りまとめるものである。

また、上記の評価後に農薬取締法に基づく適用拡大申請に伴う基準値設定依頼が農林水産省からなされた。当該基準値設定依頼に当たって、毒性や代謝に関する新たな知見の提出がなく、既存の食品健康影響評価の結果に影響はないと考えられることから、本部会での審議後に食品安全委員会に対して食品健康影響評価の要請を行うこととしている。

1. 概要

- (1) 品目名：バリダマイシン[Validamycin]
(バリダマイシンはバリダマイシンAをいう。)

- (2) 分類：農薬

- (3) 用途：殺菌剤/抗生物質

グリコシド系の殺菌剤である。菌体内に吸収された後、加水分解によりバリドキシルアミンAに変換され、貯蔵糖トレハロースの分解酵素トレハラーゼの活性を阻害することにより、殺菌効果を示すと考えられている。

ヒト用医薬品としては使用されていない。

- (4) 化学名及びCAS番号

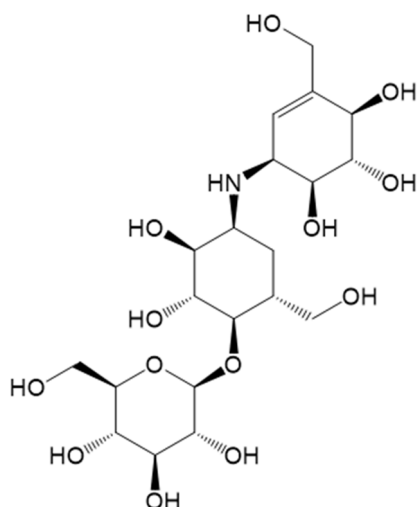
バリダマイシンA

(2*R*, 3*R*, 4*S*, 5*S*, 6*R*)-2-{[(1*R*, 2*R*, 3*S*, 4*S*, 6*R*)-2, 3-Dihydroxy-6-(hydroxymethyl)-4-{[(1*S*, 4*R*, 5*S*, 6*S*)-4, 5, 6-trihydroxy-3-(hydroxymethyl)cyclohex-2-en-1-yl]amino}cyclohexyl]oxy}-6-(hydroxymethyl) tetrahydro-2*H*-pyran-3, 4, 5-triol
(IUPAC)

D-*chiro*-Inositol, 1, 5, 6-trideoxy-4-*O*-β-D-glucopyranosyl-5-(hydroxymethyl)-1-[[[(1*S*, 4*R*, 5*S*, 6*S*)-4, 5, 6-trihydroxy-3-(hydroxymethyl)-2-cyclohexen-1-yl]amino]- (CAS : No. 37248-47-8)

(5) 構造式及び物性

バリダマイシンA



分子式	$C_{20}H_{35}NO_{13}$
分子量	497.50
水溶解度	$>6.10 \times 10^2$ g/L (20°C)
分配係数	$\log_{10}Pow = -4.21$

2. 適用の範囲及び使用方法

本剤の国内における適用の範囲及び使用方法は別紙1のとおり。

3. 代謝試験

(1) 植物代謝試験

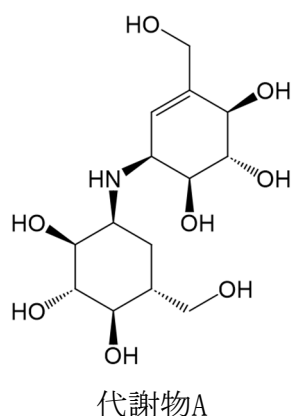
植物代謝試験が、水稻、レタス及びだいずで実施されており、可食部で親化合物の残留が認められ、10%TRR^{注)}以上認められた代謝物は、代謝物A（玄米、レタス及びだいずの子実）であった。

注) %TRR：総放射性残留物（TRR：Total Radioactive Residues）濃度に対する比率（%）

【代謝物略称一覧】

略称	JMPR 評価書の略称	化学名
A (バリドキシ ルアミンA)	—	1, 5, 6-トリデオキシ-5-(ヒドロキシメチル)-1-[(1S, 4R, 5S, 6S)-4, 5, 6-トリヒドロキシ-3-ヒドロキシメチル-2-シクロヘキセン-1-イルアミノ]-D- <i>chiro</i> -イノシトール

—：JMPRで評価されていない。



注) 残留試験の分析対象、暴露評価対象となっている代謝物について構造式を明記した。

4. 作物残留試験

(1) 分析の概要

① 分析対象物質

- ・バリダマイシンA
- ・代謝物A

② 分析法の概要

i) バリダマイシンA

試料からメタノールで抽出し、強酸性陽イオン交換樹脂カラム及び強塩基性陰イオン交換樹脂カラムを用いて精製した後、ピリジン、トリメチルクロロシラン及びビストリメチルシリルアセトアミドを加え加熱してトリメチルシリル化し、水素炎イオン化検出器付きガスクロマトグラフ (GC-FID) で定量する。

または、試料からメタノール、メタノール・水 (3 : 1) 混液又はメタノール・水 (9 : 1) 混液で抽出し、グラファイトカーボンカラム又はスチレンジビニルベンゼン共重合体カラム及びグラファイトカーボンカラムを用いて精製した後、液体クロマトグラフ・質量分析計 (LC-MS) を用いて定量する。

あるいは、試料からメタノール又はメタノール・水 (9 : 1) 混液で抽出し、*n*-ヘキサン又は酢酸エチル・*n*-ヘキサン (1 : 1) 混液で洗浄する。グラファイトカーボンカラム又はメタクリレート・スチレンジビニルベンゼン共重合体カラム及びグラファイトカーボンカラムを用いて精製した後、LC-MSを用いて定量する。

定量限界 : 0.007~0.2 mg/kg

ii) バリダマイシンA及び代謝物A

試料からメタノール・水 (9 : 1) 混液で抽出し、グラファイトカーボンカラム又はスチレンジビニルベンゼン共重合体カラム及びグラファイトカーボンカラムを用いて精製した後、LC-MSを用いて定量する。

荒茶については試料を粉碎し、水で膨潤後、メタノール・水 (9 : 1) 混液で抽出し、スチレンジビニルベンゼン共重合体カラム及びグラファイトカーボンカラムで精製した後、液体クロマトグラフ・タンデム型質量分析計 (LC-MS/MS) を用いて定量する。

なお、代謝物Aの分析値は、換算係数1.48を用いてバリダマイシンA濃度に換算した値として示した。

定量限界：バリダマイシンA 0.05 mg/kg
代謝物A 0.074 mg/kg (バリダマイシンA換算濃度)

(2) 作物残留試験

国内作物残留試験については、さといも、チンゲンサイ、茶等の試験成績を追加した。試験成績の概要を別紙2に示す。

5. 許容一日摂取量 (ADI) 及び急性参照用量 (ARfD) の評価

食品安全基本法 (平成15年法律第48号) 第24条第1項第1号の規定に基づき、食品安全委員会あて意見を求めたバリダマイシンに係る食品健康影響評価において、以下のとおり評価されている。

(1) ADI

ADI : 0.36 mg/kg体重/日 (バリダマイシンA換算)

(ADI設定根拠資料) 慢性毒性/発がん性併合試験

(動物種) ラット

(期間) 2年間

(投与方法) 混餌

(無毒性量) 36.8 mg/kg体重/日

(安全係数) 100

なお、食品安全委員会は、発がん性は認められなかったと評価している。

(2) ARfD

ARfD : 3.2 mg/kg体重 (バリダマイシンA換算)

(ARfD設定根拠資料) 亜急性毒性試験

(動物種) イヌ

(期間) 90日間

(投与方法) カプセル経口

(無毒性量) 327 mg/kg体重/日

(安全係数) 100

(3) その他

食品安全委員会によると、バリダマイシン原体投与による腸内細菌叢及び盲腸重量の変化 (マウス) において、バリダマイシン投与群では糞便中の培養可能な細菌数に大きな変化は認められなかったと評価されている。

6. 諸外国における状況

JMPRにおける毒性評価はなされておらず、国際基準も設定されていない。

米国、カナダ、EU、豪州及びニュージーランドについて調査した結果、いずれの国及び地域においても基準値は設定されていない。

7. 残留規制

(1) 残留の規制対象

バリダマイシンAとする。

植物代謝試験において、代謝物Aが10%TRRを超えて認められたが、可食部においてバリダマイシンAの残留が認められることから、残留の規制対象には代謝物Aを含めずバリダマイシンAのみとする。

(2) 基準値案

別紙3のとおりである。

(3) 本剤については、基準値を設定しない食品に関して、食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）第1 食品の部 A 食品一般の成分規格の項1に示す「食品は、抗生物質又は化学的合成品たる抗菌性物質を含有してはならない。」が適用される。

8. 暴露評価

(1) 暴露評価対象

バリダマイシンA及び代謝物Aとする。

植物代謝試験において、代謝物Aが10%TRRを超えて認められたこと、代謝物Aが測定された葉菜、果菜及び茶の作物残留試験においてバリダマイシンAと同等かそれ以上の残留が認められたことから、暴露評価対象物質はバリダマイシンA及び代謝物Aとする。

なお、食品安全委員会は、食品健康影響評価において、農産物中の暴露評価対象物質をバリダマイシン（親化合物のみ）としている。

(2) 暴露評価結果

① 長期暴露評価

1日当たり摂取する農薬の量のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙4参照。

	EDI／ADI (%) 注)
国民全体（1歳以上）	2.7
幼小児（1～6歳）	5.5
妊婦	2.3
高齢者（65歳以上）	3.4

注) 各食品の平均摂取量は、平成17～19年度の食品摂取頻度・摂取量調査の特別集計業務報告書による。

EDI 試算値：作物残留試験成績の中央値（STMR）等×各食品の平均摂取量

② 短期（1日経口）暴露評価

各食品の短期推定摂取量（ESTI）を算出したところ、国民全体（1歳以上）及び幼小児（1～6歳）のそれぞれにおける摂取量はARfDを超えていない^{注)}。詳細な暴露評価は別紙5-1及び5-2参照。

注) 基準値案、暴露評価対象物質の残留濃度から推定される基準値に相当する値、作物残留試験における最高残留濃度（HR）又は中央値（STMR）を用い、平成17～19年度の食品摂取頻度・摂取量調査及び平成22年度の厚生労働科学研究の結果に基づきESTIを算出した。

バリダマイシンの適用の範囲及び使用方法（国内）

2025年4月23日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量 (目安)	使用回数	バリダマイシン を含む農薬の 総使用回数	
稲	5.0% SL	散布	1000倍	収穫14日前まで	60～150 L/10 a	5回以内	6回以内 (育苗箱灌注は1 回以内、 本田では5回以 内)	
			300倍		25 L/10 a			
		空中散布	25～35倍	収穫14日前まで	3 L/10 a	5回以内		
		無人ヘリコプ ターによる散布	8倍	収穫14日前まで	800 mL/10 a	5回以内		
		空中散布	7～8倍	収穫14日前まで	800 mL/10 a	5回以内		
			原液		120～150 mL/10 a			
	3.0% SL	散布	500～1000倍	収穫14日前まで	60～150 L/10 a	5回以内		
		空中散布	20～30倍	収穫14日前まで	3 L/10 a	5回以内		
			4～8倍		800 mL/10 a			
	0.30% DP	散布	3～4 kg/10 a	収穫14日前まで	—	5回以内		
	5.0% SC 配合剤1	散布	1000倍	収穫14日前まで	60～150 L/10 a	2回以内		
			300倍		25 L/10 a			
		無人ヘリコプ ターによる散布	8倍	収穫14日前まで	800 mL/10 a	2回以内		
	5.0% SC 配合剤2	散布	1000倍	収穫14日前まで	60～150 L/10 a	2回以内		
			300倍		25 L/10 a			
		無人ヘリコプ ターによる散布	8倍	収穫14日前まで	800 mL/10 a	2回以内		
	5.0% SC 配合剤3	散布	1000倍	収穫14日前まで	60～150 L/10 a	3回以内		
			300倍		25 L/10 a			
		無人航空機によ る散布	8倍	収穫14日前まで	800 mL/10 a	3回以内		
	5.0% SC 配合剤4	空中散布	30倍	収穫14日前まで	3 L/10 a	2回以内		
		無人ヘリコプ ターによる散布	8倍	収穫14日前まで	800 mL/10 a	2回以内		
	5.0% SC 配合剤5	散布	1000倍	収穫14日前まで	—	3回以内		
		空中散布	30倍	収穫14日前まで	3 L/10 a	3回以内		
			8倍		800 mL/10 a			
		無人ヘリコプ ターによる散布	8倍	収穫14日前まで	800 mL/10 a	3回以内		
	5.0% SC 配合剤6	散布	1000倍	収穫14日前まで	60～150 L/10 a	2回以内		
			300倍		25 L/10 a			
		空中散布	30倍	収穫14日前まで	3 L/10 a	2回以内		
			8倍		800 mL/10 a			
		無人航空機によ る散布	8倍	収穫14日前まで	800 mL/10 a	2回以内		
	5.0% SC 配合剤7	散布	1000倍	穂揃期まで	60～200 L/10 a	2回以内		
			300倍		25 L/10 a			
		空中散布	8倍	穂揃期まで	800 mL/10 a	2回以内		
	無人航空機によ る散布	8倍	穂揃期まで	800 mL/10 a	2回以内			
		4.0% SL 配合剤8	散布	1000倍	穂揃期まで	—		2回以内
			空中散布	30倍	穂揃期まで	3 L/10 a		2回以内
	8倍			800 mL/10 a				
	無人航空機によ る散布	8倍	穂揃期まで	800 mL/10 a	2回以内			
	2.5% WP 配合剤9	散布	500倍	収穫14日前まで	60～150 L/10 a	2回以内		

バリダマイシンの適用の範囲及び使用方法 (国内)

2025年4月23日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量 (目安)	使用回数	バリダマイシン を含む農薬の 総使用回数
稲	0.30% DP 配合剤10	散布	3～4 kg/10 a	収穫14日前まで	—	2回以内	6回以内 (育苗箱灌注は1 回以内、 本田では5回以 内)
	0.30% DP 配合剤11	散布	4 kg/10 a	収穫21日前まで	—	2回以内	
			3～4 kg/10 a				
	0.30% DP 配合剤12	散布	3～4 kg/10 a	収穫14日前まで	—	2回以内	
	0.30% DP 配合剤13	散布	3～4 kg/10 a	収穫14日前まで	—	3回以内	
	0.30% DP 配合剤14	散布	4 kg/10 a	収穫14日前まで	—	2回以内	
			3～4 kg/10 a				
	0.30% DP 配合剤15	散布	4 kg/10 a	収穫14日前まで	—	3回以内	
			3～4 kg/10 a				
	0.30% DP 配合剤16	散布	4 kg/10 a	収穫14日前まで	—	2回以内	
			3～4 kg/10 a				
	0.30% DP 配合剤17	散布	4 kg/10 a	収穫14日前まで	—	3回以内	
			3～4 kg/10 a				
	0.30% DP 配合剤18	散布	4 kg/10 a	収穫14日前まで	—	2回以内	
3～4 kg/10 a							
0.30% DP 配合剤19	散布	3～4 kg/10 a	穂揃期まで	—	2回以内		
0.30% DP 配合剤20	散布	3～4 kg/10 a	穂揃期まで	—	2回以内		
0.30% DP 配合剤21	散布	3～4 kg/10 a	穂揃期まで	—	2回以内		
0.30% DP 配合剤22	散布	4 kg/10 a	穂揃期まで	—	2回以内		
		3～4 kg/10 a					
稲(箱育苗)	5.0% SL	灌注	1000倍	は種時～ 発病初期	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当たり希釈 液500 mL	1回	6回以内 (育苗箱灌注は1 回以内、 本田では5回以 内)
	3.0% SL	灌注	500倍	は種時～ 発病初期	育苗箱(30×60×3 cm使用土壌約5 L)1箱当たり500 mL	1回	
未成熟 とうもろこし	5.0% SL	散布	1000倍	収穫7日前まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内
だいず	5.0% SL	散布	500倍	収穫7日前まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内
ばれいしょ	5.0% SL	散布	500倍	収穫3日前まで	100～300 L/10 a	6回以内	7回以内 (種いもへの処理 は1回以内、 植付後は6回以 内)
		種いも散布	200倍	貯蔵前 又は植付前	種いも100 kg当 たり2.5～3 L	1回	
			10倍	植付前	種いも100 kg当 たり200～300 mL		
		瞬時～10分間 種いも浸漬	200倍	貯蔵前 又は植付前	—	1回	
	0.30% DP	種いも粉衣	種いも重量の0.3%	植付前	—	1回	
さといも	5.0% SL	散布	500倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内
こんにゃく	5.0% SL	散布	500倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内
					1～3 L/㎡		
てんさい	5.0% SL	灌注	400倍	育苗中期	3～6 L/㎡	1回	1回
	3.0% SL	灌注	250倍	育苗中期	3～6 L/㎡	1回	

バリダマイシンの適用の範囲及び使用方法（国内）

2025年4月23日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量 (目安)	使用回数	バリダマイシン を含む農薬の 総使用回数
だいこん	5.0% SL	散布	500倍	収穫7日前まで	100～300 L/10 a	4回以内	4回以内
	0.30% DP	株元散布	20 kg/10 a	収穫7日前まで	—	4回以内	
	4.0% SL 配合剤8	散布	500倍	収穫14日前まで	100～300 L/10 a	3回以内	
はくさい	5.0% SL	散布	500倍	収穫3日前まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内
キャベツ	5.0% SL	散布	800倍	収穫7日前まで	100～300 L/10 a	5回以内	5回以内
	4.0% SL 配合剤8	散布	800倍	収穫7日前まで	100～300 L/10 a	4回以内	
チンゲンサイ	5.0% SL	散布	500倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内
ブロッコリー	5.0% SL	散布	500～800倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	4回以内	4回以内
			800倍			3回以内	
レタス	5.0% SL	散布	800倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内
	3.0% SL	散布	500倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	
非結球レタス	5.0% SL	散布	800倍	収穫3日前まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内
ふき	5.0% SL	30分間種茎浸漬	800倍	植付時	—	1回	5回以内 (種茎浸漬は1回 以内)
		灌注	800倍	収穫7日前まで	3 L/m ²	5回以内	
	3.0% SL	30分間種茎浸漬	500倍	植付時	—	1回	
		灌注	500倍	収穫7日前まで	3 L/m ²	5回以内	
ふき (ふきのとう)	5.0% SL	30分間種茎浸漬	800倍	植付時	—	1回	6回以内 (種茎浸漬は1回 以内、 灌注は5回以内)
		灌注	800倍	収穫30日前まで	3 L/m ²	5回以内	
たまねぎ	5.0% SL	散布	500倍	収穫3日前まで	100～300 L/10 a	5回以内	5回以内
	4.0% SL 配合剤8	散布	500倍	収穫7日前まで	100～300 L/10 a	5回以内	
ねぎ	5.0% SL	株元散布	500倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	2回以内	3回以内 (は種時の灌注は 1回以内、 散布及び株元散 布は合計2回以 内)
		散布	500倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	2回以内	
		灌注	400倍	は種時	6 L/m ²	1回	
にんにく	5.0% SL	散布	800倍	収穫3日前まで	100～300 L/10 a	5回以内	5回以内
にら	5.0% SL	散布	800倍	刈揃え前まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内
セルリー	5.0% SL	散布	800倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内
みつば	5.0% SL	散布	800倍	移植後 ただし 収穫7日前ま で、伏せ込み栽 培は伏せ込み前 まで	100～300 L/10 a	3回以内	4回以内 (育苗期は1回以 内、 移植後は3回以 内)
				育苗期		1回	
トマト	3.0% SL	灌注	500倍	は種直後	3 L/m ²	1回	1回
なす	5.0% SL	散布	500倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	10回以内	10回以内
きゅうり	5.0% SL	灌注	800倍	は種直後	3 L/m ²	1回	1回
	3.0% SL	灌注	500倍	は種直後	3 L/m ²	1回	

バリダマイシンの適用の範囲及び使用方法（国内）

2025年4月23日時点版

作物名	剤型	使用方法	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	散布液量 (目安)	使用回数	バリダマイシン を含む農薬の 総使用回数
ほうれんそう	5.0% SL	散布	500倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	4回以内	4回以内
しょうが	5.0% SL	散布	800倍	収穫14日前まで	100～300 L/10 a	4回以内	4回以内
	3.0% SL	散布	500倍	収穫14日前まで	100～300 L/10 a	4回以内	
えだまめ	5.0% SL	散布	500倍	収穫7日前まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内
かんきつ	5.0% SL	散布	500倍	収穫7日前まで	200～700 L/10 a	4回以内	4回以内
もも	5.0% SL	散布	500倍	収穫7日前まで	200～700 L/10 a	4回以内	4回以内
すもも	5.0% SL	散布	500倍	収穫3日前まで	200～700 L/10 a	4回以内	4回以内
うめ	5.0% SL	散布	500倍	収穫7日前まで	200～700 L/10 a	4回以内	4回以内
いちご	5.0% SL	散布	1000倍	収穫前日まで	100～300 L/10 a	3回以内	3回以内
茶	5.0% SL	散布	500倍	摘採7日前まで	200～400 L/10 a	2回以内	2回以内

SL：液剤

DP：粉剤

SC：フロアブル

WP：水和剤

配合剤1：8.0%トリシクラゾール・15.0%フェリムゾン

配合剤2：6.6%クロチアニジン・8.0%トリシクラゾール・15.0%フェリムゾン

配合剤3：20.0%フサライド

配合剤4：20.0%フェリムゾン・15.0%フサライド

配合剤5：20.0%トリシクラゾール

配合剤6：15.0%フェリムゾン・15.0%フサライド

配合剤7：1.37%カスガマイシン・8.0%トリシクラゾール

配合剤8：2.3%カスガマイシン

配合剤9：5.0%エトフェンプロックス・15.0%フェリムゾン・10.0%フサライド

配合剤10：2.0%フェリムゾン・1.5%フサライド

配合剤11：2.0%カルタップ・0.15%クロチアニジン・2.0%フェリムゾン・1.5%フサライド

配合剤12：0.50%トリシクラゾール・2.0%フェリムゾン

配合剤13：0.50%クロチアニジン・2.5%フサライド

配合剤14：0.50%クロチアニジン・0.50%メトキシフェノジド・2.0%フェリムゾン・1.5%フサライド

配合剤15：0.50%エトフェンプロックス・2.5%フサライド

配合剤16：0.50%エトフェンプロックス・2.0%フェリムゾン・1.5%フサライド

配合剤17：0.50%エトフェンプロックス・1.0%トリシクラゾール

配合剤18：0.50%エトフェンプロックス・0.50%トリシクラゾール・2.0%フェリムゾン

配合剤19：0.50%エトフェンプロックス・0.34%カスガマイシン・0.50%トリシクラゾール

配合剤20：0.50%エトフェンプロックス・0.11%カスガマイシン・0.50%トリシクラゾール

配合剤21：0.35%ジノテフラン・0.75%テブフェノジド・0.34%カスガマイシン・0.50%トリシクラゾール

配合剤22：0.35%ジノテフラン・0.34%カスガマイシン・0.50%トリシクラゾール

今回基準値設定依頼のあった適用の範囲及び使用方法を網掛けで示した。

ー：規定されていない項目

バリダマイシンの作物残留試験成績一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				各化合物の残留濃度の合計 (mg/kg) 注1)		各化合物の残留濃度 (mg/kg) 注2) 【バリダマイシンA/代謝物A】		設定の根拠等
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数					
水稲 (玄米)	2	5.0% SL	原液散布 150 mL/10 a + 原液空中散布 150 mL/10 a	2	32	圃場A: - ^{#0}	圃場A:<0.055/- (\$)(#)			
			原液空中散布 150 mL/10 a	1	53	圃場B: - ^{#0}	圃場B:<0.055/- (\$)			
	2		原液無人ヘリ散布 150 mL/10 a	1	14	圃場A: 0.18 ^{#1}	圃場A:<0.05/-			
	2		6倍無人ヘリ散布 800 mL/10 a	3	16	圃場A: 0.18 ^{#1}	圃場A:<0.05/-			
					14	圃場B: 0.18 ^{#1}	圃場B:<0.05/-			
	4		300倍散布 25 L/10 a	3	14	圃場A: 0.18 ^{#1}	圃場A:<0.05/-			
						圃場B: 0.18 ^{#1}	圃場B:<0.05/-			
				1		圃場C: 0.18 ^{#1}	圃場C:<0.05/-			
						圃場D: 0.18 ^{#1}	圃場D:<0.05/-			
	2	5.0% SC	原液無人ヘリ散布 56~135, 147 mL/10 a	2	29	圃場A: - ^{#0}	圃場A:<0.05/- (#)			
	34				圃場B: - ^{#0}	圃場B:<0.05/- (#)				
	2	1000倍散布 100, 150 L/10 a	2, 3	52	圃場A: - ^{#0}	圃場A:<0.05/- (3回, 52日)				
	2	3.0% SL	8倍 800 mL/10 a +30倍 3 L/10 a 空中散布	2	51	圃場A: - ^{#0}	圃場A:<0.04/- (\$)			
									4倍空中散布 800 mL/10 a	1
			散布	1, 2, 3	34, 55, 71	圃場A: - ^{#0}	圃場A:<0.05/- (3回, 34日)(#)			
				1, 2, 3	45, 55, 67	圃場B: - ^{#0}	圃場B:<0.05/- (3回, 45日)(#)			
			500倍散布 100, 150 L/10 a	3, 6	0	圃場A: - ^{#0}	圃場A:<0.008/- (\$)(#)			
					1	圃場B: - ^{#0}	圃場B:<0.008/- (\$)(#)			
			500倍散布 150 L/10 a	1	14	圃場A: 0.18 ^{#1}	圃場A:<0.05/-			
						圃場B: 0.18 ^{#1}	圃場B:<0.05/-			
						圃場C: 0.18 ^{#1}	圃場C:<0.05/-			
						圃場D: 0.18 ^{#1}	圃場D:<0.05/-			
			1000倍散布 100, 120 L/10 a	2	41	圃場A: - ^{#0}	圃場A:<0.04/- (\$)			
						1	57		圃場B: - ^{#0}	圃場B:<0.04/- (\$)
2	0.30% DP	散布 4 kg/10 a	1, 2, 3	48, 58, 68	圃場A: - ^{#0}	圃場A:<0.06/- (3回, 48日)				
				48, 62, 72	圃場B: - ^{#0}	圃場B:<0.06/- (3回, 48日)				
2	散布 4 kg/10 a	6	14, 21	圃場A: 0.16 ^{#1} (#)	圃場A:<0.045/- (\$)(#)	◎				
2	0.30% DP	4.0, 4.5 kg/10 a	2, 3	7, 44	圃場A: - ^{#0}		圃場A:<0.055/- (2回, 44日) (\$)			
				15, 62	圃場B: 0.19 ^{#1} (3回, 15日)	圃場B:<0.055/- (3回, 15日) (\$)				
2	0.30% GR	散布 4 kg/10 a	1, 2	1, 7, 20	圃場A: - ^{#0}	圃場A:<0.055/- (2回, 1日) (\$)(#)				
			2, 4	7	圃場B: - ^{#0}	圃場B:<0.055/- (4回, 7日) (\$)(#)				
未成熟とうもろこし(種子)	2	5.0% SL	1000倍散布 200 L/10 a	3	7, 14	圃場A: 0.11 ^{#2}		圃場A:<0.05/-	◎	
だいず(乾燥子実)	2	5.0% SL	500倍散布 250 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A: 0.07 ^{#3}	圃場A:<0.05/-	◎		
						圃場B: 0.07 ^{#3}	圃場B:<0.05/-			
ばれいしょ(塊茎)	2	5.0% SL	10倍0.3%種いも散布 + 500倍散布 156~194, 190 L/10 a	1+6	7, 14	圃場A:<0.124	圃場A:<0.05/<0.074	◎		
						圃場B:<0.124	圃場B:<0.05/<0.074			
	2	5.0% SL + 0.30% DP	液剤200倍種いも浸漬 + 液剤200倍種いも散布 + 粉剤0.3%種いも粉衣 + 液剤250倍散布 150, 300 L/10 a	1+1+6	7, 14	圃場A:<0.124 ^{#4} (#)	圃場A:<0.05/- (#)			
						圃場B:<0.124 ^{#4} (#)	圃場B:<0.05/- (#)			
	2	3.0% SL	10倍種いも瞬間浸漬	1	141	圃場A: - ^{#0}	圃場A:<0.045/- (\$)(#)			
					138	圃場B: - ^{#0}	圃場B:<0.045/- (\$)(#)			
	2	0.30% DP + 3.0% SL	1%種いも粉衣 + 500倍灌注 3 L/m ²	1+5	7	圃場A:<0.109 ^{#4} (#)	圃場A:<0.035/- (\$)(#)			
8					圃場B:<0.114 ^{#4} (#)	圃場B:<0.04/- (\$)(#)				
2	0.30% DP	0.3%種いも粉衣	1	120	圃場A: - ^{#0}	圃場A:<0.05/-				
				148	圃場B: - ^{#0}	圃場B:<0.05/-				
さといも(塊茎)	3	5.0% SL	500倍散布 181~198 L/10 a	3	1, 3, 7, 14, 21, 28, 35	圃場A:<0.124		圃場A:<0.05/<0.074	◎	
						圃場B:<0.124	圃場B:<0.05/<0.074			
						圃場C:<0.124	圃場C:<0.05/<0.074			
こんにゃく(球茎)	3	5.0% SL	500倍散布 3000 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:<0.124	圃場A:<0.05/<0.074	◎		
						圃場B:<0.124	圃場B:<0.05/<0.074			
						圃場C:<0.124	圃場C:<0.05/<0.074			
てんさい(根部)	2	3.0% SL	250倍灌注 6 L/m ² , 1 L/冊 + 500倍散布 100 L/10 a	2+3	30	圃場A:<0.112 ^{#5} (#)	圃場A:<0.045/- (\$)(#)	◎		
						圃場B:<0.112 ^{#5} (#)	圃場B:<0.045/- (\$)(#)			

バリダマイシンの作物残留試験成績一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				各化合物の残留濃度の合計 (mg/kg) 注1)	各化合物の残留濃度 (mg/kg) 注2) 【バリダマイシンA/代謝物A】	設定の根拠等
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数			
だいこん (根部)	2	5.0% SL	500倍散布 58~330, 150 L/10 a	4	7, 14, 21	圃場A:<0.124 ^{#5)}	圃場A:<0.05/-	
					7, 14, 20	圃場B:<0.124 ^{#5)}	圃場B:<0.05/-	
	2	3.0% SL	500倍土壌灌注200 mL/株 500倍土壌灌注3000 L/10 a	4	14, 21, 28	圃場A:- ^{#0)}	圃場A:<0.05/- (4回, 14日) (#)	
						圃場B:- ^{#0)}	圃場B:<0.05/- (4回, 14日) (#)	
だいこん (葉部)	2	5.0% SL	500倍散布 58~330, 150 L/10 a	4	7, 14, 21	圃場A:<0.124 ^{#5)}	圃場A:<0.05/-	◎
					7, 14, 20	圃場B:<0.124 ^{#5)}	圃場B:<0.05/-	
	2	3.0% SL	500倍土壌灌注200 mL/株 500倍土壌灌注3000 L/10 a	4	14, 21, 28	圃場A:- ^{#0)}	圃場A:<0.05/- (4回, 14日) (#)	
						圃場B:- ^{#0)}	圃場B:<0.05/- (4回, 14日) (#)	
はくさい (茎葉)	2	5.0% SL	500倍散布 200, 300 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A:0.57 ^{#7)}	圃場A:<0.05/-	◎
						圃場B:0.57 ^{#7)}	圃場B:<0.05/-	
	2	5.0% SL	800倍散布 40~200 L/10 a	5	7, 14	圃場A:0.45 ^{#6)} (5回, 7日) (#)	圃場A:<0.05/- (5回, 7日) (#)	◎
						圃場B:0.45 ^{#6)}	圃場B:<0.05/-	
チンゲンサイ (茎葉)	3	5.0% SL	500倍散布 153~194 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A:1.83	圃場A:1.12/0.71	◎
						圃場B:7.27	圃場B:4.41/2.86	
	3	5.0% SL	500倍散布 163~300 L/10 a	4	1, 3, 7, 14, 21	圃場C:9.08	圃場C:4.54/4.54	◎
						圃場A:1.18 (4回, 3日)	圃場A:*0.10/*1.08 (*4回, 3日)	
ブロッコリー (花蕾)	2	5.0% SL	800倍散布 197, 281~282 L/10 a	3	1, 3, 7, 14, 21	圃場A:6.89 ^{#8)} (3回, 1日)	圃場A:0.725/-	
						圃場B:0.86 ^{#8)} (3回, 1日)	圃場B:<0.09/-	
	3	5.0% SL	500倍散布 163~300 L/10 a	4	1, 3, 7, 14, 21	圃場A:1.18 (4回, 3日)	圃場A:*0.10/*1.08 (*4回, 3日)	◎
						圃場B:0.67	圃場B:<0.05/0.62	
レタス (茎葉)	2	3.0% SL	500倍散布 200 L/10 a	2, 3	1, 7	圃場A:0.52 ^{#8)} (2回, 1日)	圃場A:*0.055/- (*2回, 1日)	
						圃場B:0.52 ^{#8)} (2回, 1日)	圃場B:*0.055/- (*2回, 1日)	
	2	5.0% SL	800倍散布 200 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A:1.02 ^{#7)}	圃場A:0.09/-	◎
						圃場B:0.68 ^{#7)}	圃場B:0.06/-	
サラダ菜 (茎葉)	2	5.0% SL	800倍散布 200, 300 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A:0.57 ^{#7)}	圃場A:<0.05/-	◎
						圃場B:0.57 ^{#7)}	圃場B:<0.05/-	
	2	3.0% SL	500倍 30分間種茎浸漬 + 灌注 3 L/m ²	1+6 1+5	8 7	圃場A:1.14 ^{#6)} (#)	圃場A:<0.125/- (\$) (#)	◎
						圃場B:1.14 ^{#6)} (#)	圃場B:<0.125/- (\$) (#)	
ふきのとう (花蕾)	2	5.0% SL	800倍 30分間種茎浸漬 + 灌注 3 L/m ²	1+5	29, 44, 60, 75	圃場A:<0.124	圃場A:<0.05/<0.074	
					28, 43, 60, 75	圃場B:<0.124 ^{#9)}	圃場B:<0.05/-	
	2	5.0% SL	500倍散布 150 L/10 a	5	3, 7, 14	圃場A:<0.124 ^{#5)}	圃場A:<0.05/-	◎
						圃場B:<0.124 ^{#5)}	圃場B:<0.05/-	
ねぎ (茎葉)	2	5.0% SL	400倍灌注 6 L/m ² + 600倍散布200 L/10 a	1+4	7, 14, 21	圃場A:0.45 ^{#6)} (5回, 7日) (#)	圃場A:<0.05/- (5回, 7日) (#)	
			400倍灌注 4 L/m ² + 500倍散布200 L/10 a			圃場B:0.82 ^{#6)} (5回, 7日) (#)	圃場B:0.09/- (5回, 7日) (#)	
	2	5.0% SL	400倍灌注6 L/m ²	1	100	圃場A:<0.124 ^{#11)}	圃場A:<0.05/-	
					56	圃場B:<0.124 ^{#11)}	圃場B:<0.05/-	
	2	5.0% SL	400倍灌注 6 L/m ² + 500倍散布 200 L/10 a	1+1	14, 21, 28	圃場A:- ^{#0)}	圃場A:<0.05/- (2回, 14日)	
					14, 21, 28	圃場B:- ^{#0)}	圃場B:<0.05/- (2回, 14日)	
	2	5.0% SL	500倍散布 180~182, 200 L/10 a	2	1, 3, 7, 14, 21	圃場A:0.48 ^{#8)}	圃場A:<0.05/-	◎
						圃場B:8.56 ^{#8)}	圃場B:0.90/-	
にんにく (鱗茎)	2	5.0% SL	800倍散布 200 L/10 a	5	3, 7, 14	圃場A:<0.124 ^{#5)}	圃場A:<0.05/-	◎
						圃場B:<0.124 ^{#5)}	圃場B:<0.05/-	
	2	5.0% SL	800倍散布 222, 300 L/10 a	3	19	圃場A:<0.124 ^{#10)}	圃場A:<0.05/-	◎
					42	圃場B:<0.124 ^{#10)}	圃場B:<0.05/-	
セルリー (茎葉)	3	5.0% SL	800倍散布 222~278 L/10 a	3	1, 3, 7, 14, 21	圃場A:2.67	圃場A:0.75/1.92	◎
						圃場B:1.92	圃場B:0.68/1.24	
	3	5.0% SL	800倍散布 222~278 L/10 a	3	1, 3, 7, 14, 21	圃場C:1.09	圃場C:0.44/0.65	◎
みつば (茎葉)	2	5.0% SL	800倍散布 (育苗期)360, 419 L/10 a +(定植後)200 L/10 a	1+3	7, 14, 21	圃場A:1.82 ^{#6)}	圃場A:0.20/-	◎
						圃場B:0.64 ^{#6)}	圃場B:0.07/-	
	2	3.0% SL	500倍灌注 6 L/m ²	3	80	圃場A:<0.112 ^{#11)} (#)	圃場A:<0.045/- (\$) (#)	◎
					103	圃場B:<0.112 ^{#11)} (#)	圃場B:<0.045/- (\$) (#)	

バリダマイシンの作物残留試験成績一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				各化合物の残留濃度の合計 (mg/kg) 注1)	各化合物の残留濃度 (mg/kg) 注2) 【バリダマイシンA/代謝物A】	設定の根拠等
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数			
なす (果実)	2	5.0% SL	500倍散布 200, 250 L/10 a	8	1, 3, 7	圃場A:0.72 ^{#12)} 圃場B:0.72 ^{#12)}	圃場A:<0.05/- 圃場B:<0.05/-	◎
	6		500倍散布 109～282 L/10 a	10	1, 3, 7, 14	圃場A:1.20 圃場A:0.86 圃場B:1.62 圃場D:0.60 圃場E:1.14 圃場F:0.59 (10回, 3日)	圃場A:0.22/*0.99 (*10回, 7日) 圃場B:*0.08/0.80 (*10回, 3日) 圃場C:0.20/1.42 圃場D:<0.05/0.55 圃場E:0.18/0.96 圃場F:0.16/*0.52 (*10回, 3日)	
なす (小なす)	1	5.0% SL	500倍散布 188～203 L/10 a	10	1, 3, 7, 14	圃場A:0.72 ^{#12)}	圃場A:<0.05/-	◎
きゅうり (果実)	2	3.0% SL	500倍灌注 6 L/m ²	3	43 44	圃場A:<0.112 ^{#11)} (#) 圃場B:<0.112 ^{#11)} (#)	圃場A:<0.045/- (\$) (#) 圃場B:<0.045/- (\$) (#)	◎
ほうれんそう (茎葉)	6	5.0% SL	500倍散布 192～213 L/10 a	4	1, 3, 7, 14, 21	圃場A:9.90 圃場B:20.7 (4回, 3日) 圃場C:17.7 圃場D:18.3 圃場E:12.0 (4回, 3日) 圃場F:12.0	圃場A:2.16/7.74 圃場B:5.74/*15.4 (*4回, 3日) 圃場C:8.38/9.35 圃場D:11.6/*7.13 (*4回, 3日) 圃場E:4.32/*7.76 (*4回, 3日) 圃場F:4.86/*7.67 (*4回, 3日)	◎
しょうが (根茎)	2	3.0% SL	300倍散布 90, 150 L/10 a	2, 4, 6	1, 5, 10 1, 6, 11	圃場A:<0.124 ^{#5)} (4回, 10日) (#) 圃場B:<0.124 ^{#5)} (4回, 11日) (#)	圃場A:<0.05/- (4回, 10日) (#) 圃場B:<0.05/- (4回, 11日) (#)	◎
えだまめ (さや)	2	5.0% SL	500倍散布 200, 300 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:0.07 ^{#3)} 圃場B:0.07 ^{#3)}	圃場A:<0.05/- 圃場B:<0.05/-	◎
みかん (果肉)	2	5.0% SL	500倍散布 500 L/10 a	4	7, 14, 21	圃場A:1.23 ^{#13)} 圃場B:1.23 ^{#13)}	圃場A:<0.05/- 圃場B:<0.05/-	◎
みかん (果皮)	2	5.0% SL	500倍散布 500 L/10 a	4	7, 14, 21	圃場A:23.4 ^{#13)} 圃場B:9.63 ^{#13)}	圃場A:0.95/- 圃場B:0.39/-	
みかん (果実)	2	5.0% SL	500倍散布 500 L/10 a	4	7, 14, 21	圃場A:5.43 ^{#13)} 圃場B:2.47 ^{#13)}	圃場A:0.22/-注3) 圃場B:0.10/-注3)	◎
なつみかん (果肉)	1	5.0% SL	500倍散布 500 L/10 a	4	7, 14, 21	圃場A:1.23 ^{#13)}	圃場A:<0.05/-	
なつみかん (果皮)	1	5.0% SL	500倍散布 500 L/10 a	4	7, 14, 21	圃場A:13.5 ^{#13)}	圃場A:0.545/-	
なつみかん (果実)	2	5.0% SL	500倍散布 500 L/10 a	4	7, 14, 21	圃場A:4.94 ^{#13)} 圃場B:1.23 ^{#13)}	圃場A:0.20/-注3) 圃場B:<0.05/-	◎
かぼす (果実)	1	5.0% SL	500倍散布 500 L/10 a	4	6, 14, 21	圃場A:1.23 ^{#13)} (4回, 6日)	圃場A:<0.05/- (4回, 6日)	◎
すだち (果実)	1	5.0% SL	500倍散布 500 L/10 a	5	7, 14, 20	圃場A:1.23 ^{#13)} (5回, 7日) (#)	圃場A:<0.05/- (5回, 7日) (#)	◎
もも (果肉)	2	5.0% SL	500倍散布 400 L/10 a	4	7, 14, 21	圃場A:1.23 ^{#13)} 圃場B:1.23 ^{#13)}	圃場A:<0.05/- 圃場B:<0.05/-	
もも (果皮)	2	5.0% SL	500倍散布 400 L/10 a	4	7, 14, 21	圃場A:22.7 ^{#13)} (4回, 14日) 圃場B:9.63 ^{#13)}	圃場A:0.92/- (4回, 14日) 圃場B:0.39/-	
もも (果実)	2	5.0% SL	500倍散布 400 L/10 a	4	7, 14, 21	圃場A:4.20 ^{#13)} 圃場B:2.22 ^{#13)}	圃場A:0.17/-注3) 圃場B:0.09/-注3)	◎
すもも (果実)	2	5.0% SL	500倍散布 300～400 L/10 a	4	3, 7, 14, 21	圃場A:0.53 ^{#14)} 圃場B:0.85 ^{#14)}	圃場A:0.05/- 圃場B:0.08/-	◎
うめ (果実)	2	5.0% SL	500倍散布 300～400 L/10 a	4	7, 14, 21	圃場A:7.65 ^{#13)} (4回, 14日) 圃場B:1.85 ^{#13)}	圃場A:0.31/- (4回, 14日) 圃場B:0.075/-	◎
	4		500倍散布 300～430 L/10 a	1, 2	7, 14, 21, 30, 60 (21及び30日は 2回、他は1 回)	圃場A:4.94 ^{#13)} (1回, 7日) 圃場B:9.75 ^{#13)} (2回, 21日) 圃場C:1.73 ^{#13)} (2回, 30日) 圃場D:3.08 ^{#13)} (1回, 7日)	圃場A:0.20/- (1回, 7日) 圃場B:0.395/- (2回, 21日) 圃場C:0.07/- (2回, 30日) 圃場D:0.125/- (1回, 7日)	
いちご (果実)	2	3.0% SL	500倍散布 150 L/10 a	2, 4	10, 19 10, 20	圃場A:- ^{#0)} 圃場B:- ^{#0)}	圃場A:<0.05/- (4回, 10日) (#) 圃場B:<0.05/- (4回, 10日) (#)	◎
	3	5.0% SL	1000倍散布 178～185 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A:0.85 圃場B:0.68 圃場C:0.34	圃場A:0.60/0.25 圃場B:0.41/0.27 圃場C:0.22/0.12	

バリダマイシンの作物残留試験成績一覧表（国内）

農作物	試験 圃場数	試験条件				各化合物の残留濃度の合計 (mg/kg) 注1)	各化合物の残留濃度 (mg/kg) 注2) 【バリダマイシンA/代謝物A】	設定 の根拠等
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数			
茶 (荒茶)	8	5.0% SL	500倍散布 300～387 L/10 a	2	1, 3, 7, 14, 21	圃場A:9.35	圃場A:3.00/6.35	◎
						圃場B:3.29	圃場B:0.09/3.20	
						圃場C:0.61 (2回, 14日)	圃場C:<0.05/*0.56 (*2回, 14日)	
						圃場D:2.97	圃場D:0.07/2.90	
						圃場E:1.97	圃場E:0.08/1.89	
						圃場F:3.17	圃場F:0.09/3.08	
						圃場G:3.93 (2回, 21日)	圃場G:0.52/*3.88 (*2回, 21日)	
						圃場H:3.84	圃場H:0.33/3.51	

SL：液剤

SC：フロアブル

DP：粉剤

GR：微粒剤

(※)印で示した作物残留試験成績は、登録又は申請された適用の範囲内で行われていないことを示す。また、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

今回、新たに提出された作物残留試験成績を網掛けで示した。

基準値の設定根拠及び暴露評価にも使用されているものに◎で示した。

(※)同一圃場から採取された1つのサンプルを2つの分析機関に分けて測定されており、結果を平均値として示したため、実際の定量限界とは異なる。

注1) バリダマイシンA及び代謝物Aの合計濃度（バリダマイシンAに換算した値）を示した。代謝物の測定値がない農作物は以下の方法で総残留濃度を算出した。

※0) 参照可能な補正係数が得られなかったため、総残留濃度を算出できなかった。

※1) 水稲（玄米）の植物代謝試験（収穫前期間：14日）より算出した補正係数3.53をバリダマイシンの濃度に乗じて総残留濃度を算出した。

※2) 水稲（玄米）の植物代謝試験（収穫前期間：7日）より算出した補正係数2.15をバリダマイシンの濃度に乗じて総残留濃度を算出した。

※3) だいの植物代謝試験（収穫前期間：7日）より算出した補正係数1.39をバリダマイシンの濃度に乗じて総残留濃度を算出した。

※4) ばれいしょの作物残留試験成績（収穫前期間：3日）より、バリダマイシンが定量限界未満の場合は代謝物Aも定量限界未満（<0.074）として総残留濃度を算出した。

※5) さといもの作物残留試験成績（収穫前期間：1～35日）より、バリダマイシンが定量限界未満の場合は代謝物Aも定量限界未満（<0.074）として総残留濃度を算出した。

※6) ほうれんそうの作物残留試験成績（収穫前期間：7日）より算出した補正係数9.08をバリダマイシンの濃度に乗じて総残留濃度を算出した。

なお、株元散布に対応する代謝物Aのデータはないため、暫定的に散布と同様の補正係数を用いた。

※7) ほうれんそうの作物残留試験成績（収穫前期間：3日）より算出した補正係数11.38をバリダマイシンの濃度に乗じて総残留濃度を算出した。

※8) ブロッコリーの作物残留試験成績（収穫前期間：1日）より算出した補正係数9.51をバリダマイシンの濃度に乗じて総残留濃度を算出した。

※9) ふき（ふきのとう）の作物残留試験成績（収穫前期間：28日）より、バリダマイシンが定量限界未満の場合は代謝物Aも定量限界未満（<0.074）として総残留濃度を算出した。

※10) 該当する代謝物Aのデータはないが、にらの適用が刈揃え前までとされており、にらの株養成期にのみ使用するもので、収穫を前提とした生育期には使用できないとされている。これらを考慮し、暫定的に代謝物Aも定量限界未満（<0.074）として総残留濃度を算出した。

※11) 灌漑適用に対する代謝物Aのデータはないが、実際の適用が、は種直後の1回適用であることを考慮し暫定的に代謝物Aも定量限界未満（<0.074）として総残留濃度を算出した。

※12) なすの作物残留試験成績（収穫前期間：1日）より算出した補正係数14.32をバリダマイシンの濃度に乗じて総残留濃度を算出した。

※13) なすの作物残留試験成績（収穫前期間：7日）より算出した補正係数24.68をバリダマイシンの濃度に乗じて総残留濃度を算出した。

なお、収穫前日数が7日以降の場合、換算係数が算出できないため、7日の換算係数で代用した。

※14) なすの作物残留試験成績（収穫前期間：3日）より算出した補正係数10.62をバリダマイシンの濃度に乗じて総残留濃度を算出した。

注2) 当該農薬の登録又は申請された適用の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留濃度の最大値を示した。

代謝物Aの残留濃度は、バリダマイシンAに換算した値で示した。

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留濃度が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留濃度が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について（ ）内に記載した。

注3) 果肉及び果皮の重量比から果実全体の残留濃度を算出した。

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	国/地域 基準値 ppm	
米(玄米をいう。)	0.2	0.2	○			<0.045,<0.045(＃)(¥)
とうもろこし	0.2	0.2	○			<0.05,<0.05(¥)(未成熟とうもろこし)
大豆	0.2	0.2	○			<0.05,<0.05(¥)
ばれいしょ	0.2	0.2	○			<0.05,<0.05(¥)
さといも類(やつがしらを含む。)	0.05		申			<0.05,<0.05,<0.05
こんにゃくいも	0.05		申			<0.05,<0.05,<0.05
てんさい	0.2	0.2	○			<0.045,<0.045(＃)(¥)
だいこん類(ラディッシュを含む。)	0.2	0.2	○			<0.05,0.05(¥)
だいこん類(ラディッシュを含む。)	1	2	○			0.135,0.42(¥)
はくさい	0.2	0.2	○			<0.05,<0.05(¥)
キャベツ	0.2	0.2	○			<0.05(＃),<0.05(¥)
チンゲンサイ	15		申			1.12,4.41,4.54
ブロッコリー	4	2	○・申			<0.05,0.10,1.33
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む。)	0.2	0.3	○			0.06,0.09(リーフレタス)、 <0.05(サラダ菜)
その他のきく科野菜	0.5	0.5	○			<0.125,<0.125(＃)(¥)(ふき)
たまねぎ	0.2	0.2	○			<0.05,<0.05(¥)
ねぎ(リーキを含む。)	2	2	○			<0.05,0.90(¥)
にんにく	0.2	0.2	○			<0.05,<0.05(¥)
にら	0.2	0.2	○			<0.05,<0.05(¥)
セロリ	2		申			0.44,0.68,0.75
みつば	0.5	0.5	○			0.07,0.20(¥)
トマト	0.2	0.2	○			<0.045,<0.045(＃)(¥)
なす	0.5		申			<0.05~0.22(n=6)(なす)、 <0.05(小なす)
きゅうり(ガーキンを含む。)	0.2	0.2	○			<0.045,<0.045(＃)(¥)
ほうれんそう	20		申			2.16~11.6(n=6)
しょうが	0.2	0.2	○			<0.05,<0.05(＃)(¥)
えだまめ	0.2	0.2	○			<0.05,<0.05(¥)
みかん(外果皮を含む。)	0.7	0.7	○			0.10,0.22(¥)
なつみかんの果実全体	0.5	0.5	○			<0.05,0.20(¥)
レモン	0.2	0.7	○			<0.05(かぼす),<0.05(＃)(すだち)(¥)
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	0.7	0.7	○			(みかん(外果皮を含む。))参照
グレープフルーツ	0.5	0.7	○			(なつみかんの果実全体参照)
ライム	0.2	0.7	○			(レモン参照)
その他のかんきつ類果実	0.7	0.7	○			(みかん(外果皮を含む。))参照
もも(果皮及び種子を含む。)	0.5	0.5	○			0.09,0.17(¥)
すもも(プルーンを含む。)	0.3	0.3	○			0.05,0.08(¥)
うめ	1	1	○			0.08,0.31(¥)
いちご	1		申			0.22,0.41,0.60
茶	5		申			<0.05~3.00(n=8)(荒茶)
その他のスパイス	2	2	○			0.39,0.95(¥)(みかん果皮)

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	国/地域 基準値 ppm	
はちみつ	0.05					※

太枠:本基準(暫定基準以外の基準)を見直した基準値

○:既に、国内において登録等がされているもの

申:農薬の登録申請等に伴い基準値設定依頼がなされたもの

(#):適用の範囲内で試験が行われていない作物残留試験成績

(¥):基準値設定の根拠とした作物残留試験成績(最大値)

※)「食品中の農薬の残留基準設定の基本原則について」(令和6年6月25日食品衛生基準審議会農薬・動物用医薬品部会)の別添3「はちみつ中の農薬等の基準設定の方法について」に基づき設定。

バリマイシンの推定摂取量 (単位: $\mu\text{g}/\text{人}/\text{日}$)

食品名	基準値案 (ppm)	暴露評価に 用いた数値 (ppm)	国民全体 (1歳以上) EDI	幼小児 (1～6歳) EDI	妊婦 EDI	高齢者 (65歳以上) EDI
米 (玄米をいう。)	0.2	0.16	26.3	13.7	16.8	28.8
とうもろこし	0.2	0.11	0.5	0.6	0.7	0.5
大豆	0.2	0.07	2.7	1.4	2.2	3.2
ばれいしょ	0.2	0.124	4.8	4.2	5.2	4.4
さといも類 (やつがしらを含む。)	0.05	0.124	0.6	0.2	0.2	0.9
こんにゃくいも	0.05	0.124	0.1	0.0	0.1	0.2
てんさい	0.2	0.112	3.6	3.1	4.6	3.7
だいこん類 (ラディッシュを含む。)	0.2	0.124	4.1	1.4	2.6	5.7
だいこん類 (ラディッシュを含む。)	1	2.52	4.3	1.5	7.8	7.1
はくさい	0.2	0.57	10.1	2.9	9.5	12.3
キャベツ	0.2	0.45	10.8	5.2	8.6	10.7
チンゲンサイ	15	7.27	13.1	5.1	13.1	13.8
ブロッコリー	4	1.18	6.1	3.9	6.5	6.7
レタス (サラダ菜及びびちしゃを含む。)	0.2	0.68	6.5	3.0	7.8	6.3
その他のきく科野菜	0.5	1.135	1.7	0.1	0.7	3.0
たまねぎ	0.2	0.124	3.9	2.8	4.4	3.4
ねぎ (リーキを含む。)	2	4.52	42.5	16.7	30.7	48.4
にんにく	0.2	0.124	0.0	0.0	0.1	0.1
にら	0.2	0.124	0.2	0.1	0.2	0.3
セロリ	2	1.92	2.3	1.2	0.6	2.3
みつば	0.5	1.23	0.5	0.1	0.1	0.6
トマト	0.2	0.112	3.6	2.1	3.6	4.1
なす	0.5	0.86	10.3	1.8	8.6	14.7
きゅうり (ガーキンを含む。)	0.2	0.112	2.3	1.1	1.6	2.9
ほうれんそう	20	14.85	190.1	87.6	210.9	258.4
しょうが	0.2	0.124	0.2	0.0	0.1	0.2
えだまめ	0.2	0.07	0.1	0.1	0.0	0.2
みかん (外果皮を含む。)	0.7	3.95	70.3	64.8	2.4	103.5
なつみかんの果実全体	0.5	3.085	4.0	2.2	14.8	6.5
レモン	0.2	1.23	0.6	0.1	0.2	0.7
オレンジ (ネーブルオレンジを含む。)	0.7	3.95	27.7	57.7	49.4	16.6
グレープフルーツ	0.5	3.085	13.0	7.1	27.5	10.8
ライム	0.2	1.23	0.1	0.1	0.1	0.1
その他のかんきつ類果実	0.7	3.95	23.3	10.7	9.9	37.5
もも (果皮及び種子を含む。)	0.5	3.21	10.9	11.9	17.0	14.1
すもも (ブルーンを含む。)	0.3	0.69	0.8	0.5	0.4	0.8
うめ	1	4.75	6.7	1.4	2.9	8.6
いちご	1	0.68	3.7	5.3	3.5	4.0
茶	5	3.23	21.3	3.2	12.0	30.4
その他のスパイス	2	16.515	1.7	1.7	1.7	3.3
はちみつ	0.05	● 0.05	0.0	0.0	0.1	0.1
計			535.5	326.7	488.9	679.6
ADI比 (%)			2.7	5.5	2.3	3.4

EDI: 推定一日摂取量 (Estimated Daily Intake)

EDI試算法: 作物残留試験成績の中央値 (STMR) 等×各食品の平均摂取量

●: 個別の作物残留試験がないことから、暴露評価を行うにあたり基準値 (案) の数値を用いた。
茶については、浸出液における作物残留試験結果がないため、荒茶の結果を用いてEDI試算をした。

バリタマイシンの推定摂取量（短期）：国民全体(1歳以上)

食品名 (基準値設定対象)	食品名 (ESTI推定対象)	基準値案 (ppm)	評価に用いた 数値 (ppm)	ESTI (μ g/kg体重)	ESTI/ARFD (%)
米（玄米）	米	0.2	○ 0.16	1.0	0
とうもろこし	スイートコーン	0.2	0.5	5.6	0
大豆	大豆	0.2	○ 0.07	0.1	0
ばれいしょ	ばれいしょ	0.2	0.5	4.7	0
さといも類（やつがしらを含む。）	さといも	0.05	0.1	0.5	0
だいこん類（ラディッシュを含む。）の根	だいこんの根	0.2	0.5	5.8	0
だいこん類（ラディッシュを含む。）の葉	だいこんの葉	1	10	82.6	3
はくさい	はくさい	0.2	2	25.9	1
キャベツ	キャベツ	0.2	1	9.5	0
チンゲンサイ	チンゲンサイ	15	30	222.7	7
ブロッコリー	ブロッコリー	4	4	24.0	1
レタス（サラダ菜及びちしゃを含む。）	レタス類	0.2	3	16.9	1
たまねぎ	たまねぎ	0.2	0.5	4.1	0
ねぎ（リーキを含む。）	ねぎ	2	15	57.3	2
にんにく	にんにく	0.2	0.5	0.3	0
にら	にら	0.2	0.5	0.7	0
セロリ	セロリ	2	6	33.1	1
みつば	みつば	0.5	5	4.0	0
トマト	トマト	0.2	0.5	5.5	0
なす	なす	0.5	○ 1.62	10.5	0
きゅうり（ガーキンを含む。）	きゅうり	0.2	0.5	3.2	0
ほうれんそう	ほうれんそう	20	○ 20.7	100.3	3
しょうが	しょうが	0.2	0.5	0.5	0
えだまめ	えだまめ	0.2	0.3	0.8	0
みかん（外果皮を含む。）	みかん	0.7	10	93.4	3
なつみかんの果実全体	なつみかん	0.5	10	124.3	4
レモン	レモン	0.2	3	6.3	0
オレンジ（ネーブルオレンジを含む。）	オレンジ	0.7	10	94.0	3
	オレンジ果汁	0.7	○ 3.95	39.3	1
グレープフルーツ	グレープフルーツ	0.5	10	172.1	5
その他のかんきつ類果実	きんかん	0.7	10	23.9	1
	ぼんかん	0.7	10	105.2	3
	ゆず	0.7	10	15.8	0
	すだち	0.7	10	15.7	0
もも（果皮及び種子を含む。）	もも	0.5	10	135.6	4
すもも（プルーンを含む。）	プルーン	0.3	2	11.7	0
うめ	うめ	1	15	20.6	1
いちご	いちご	1	2	7.6	0
茶	緑茶類	5	○ 3.23	2.0	0
はちみつ	はちみつ	0.05	0.05	0.0	0

ESTI：短期推定摂取量（Estimated Short-Term Intake）

ESTI/ARFD(%)の値は、有効数字1桁（値が100を超える場合は有効数字2桁）とし四捨五入して算出した。

○：作物残留試験における最高残留濃度（HR）又は中央値（STMR）を用いて短期摂取量を推計した。

○を付していない食品については、基準値案の値又は暴露評価対象物質の残留濃度から推定される基準値に相当する値を使用した。

茶については、浸出液における作物残留試験結果がないため、荒茶の結果を用いて試算をした。

バリダマイシンの推定摂取量（短期）：幼小児（1～6歳）

食品名 (基準値設定対象)	食品名 (ESTI推定対象)	基準値案 (ppm)	評価に用いた 数値 (ppm)	ESTI ($\mu\text{g}/\text{kg}$ 体重)	ESTI/ARFD (%)
米（玄米）	米	0.2	○ 0.16	1.7	0
とうもろこし	スイートコーン	0.2	0.5	12.0	0
大豆	大豆	0.2	○ 0.07	0.1	0
ばれいしょ	ばれいしょ	0.2	0.5	11.3	0
さといも類（やつがしらを含む。）	さといも	0.05	0.1	1.3	0
だいこん類（ラディッシュを含む。）の根	だいこんの根	0.2	0.5	10.9	0
はくさい	はくさい	0.2	2	31.4	1
キャベツ	キャベツ	0.2	1	15.6	0
ブロッコリー	ブロッコリー	4	4	57.6	2
レタス（サラダ菜及びちしゃを含む。）	レタス類	0.2	3	29.5	1
たまねぎ	たまねぎ	0.2	0.5	8.8	0
ねぎ（リーキを含む。）	ねぎ	2	15	97.3	3
にんにく	にんにく	0.2	0.5	0.4	0
にら	にら	0.2	0.5	1.1	0
トマト	トマト	0.2	0.5	13.6	0
なす	なす	0.5	○ 1.62	25.3	1
きゅうり（ガーキンを含む。）	きゅうり	0.2	0.5	7.3	0
ほうれんそう	ほうれんそう	20	○ 20.7	232.4	7
しょうが	しょうが	0.2	0.5	0.7	0
えだまめ	えだまめ	0.2	0.3	0.8	0
みかん（外果皮を含む。）	みかん	0.7	10	273.8	9
オレンジ（ネーブルオレンジを含む。）	オレンジ	0.7	10	269.5	8
	オレンジ果汁	0.7	○ 3.95	70.4	2
もも（果皮及び種子を含む。）	もも	0.5	10	424.2	10
うめ	うめ	1	15	51.2	2
いちご	いちご	1	2	21.6	1
茶	緑茶類	5	○ 3.23	3.1	0
はちみつ	はちみつ	0.05	0.05	0.1	0

ESTI：短期推定摂取量（Estimated Short-Term Intake）

ESTI/ARFD(%)の値は、有効数字1桁（値が100を超える場合は有効数字2桁）とし四捨五入して算出した。

○：作物残留試験における最高残留濃度（HR）又は中央値（STMR）を用いて短期摂取量を推計した。

○を付していない食品については、基準値案の値又は暴露評価対象物質の残留濃度から推定される基準値に相当する値を使用した。

茶については、浸出液における作物残留試験結果がないため、荒茶の結果を用いて試算をした。

(参考)

これまでの経緯

昭和47年	5月	2日	初回農薬登録
平成17年	11月	29日	残留基準告示
平成27年	12月	16日	農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：ブロッコリー、うめ等）
平成28年	3月	22日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
令和2年	9月	29日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
令和3年	1月	27日	薬事・食品衛生審議会へ諮問
令和3年	1月	22日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
令和3年	8月	31日	残留基準告示
令和3年	9月	15日	農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：こんにゃく、チンゲンサイ等）
令和4年	7月	13日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
令和4年	8月	31日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
令和4年	11月	7日	薬事・食品衛生審議会へ諮問
令和5年	7月	24日	農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：セルリー、なす等）
令和6年	2月	27日	農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：さといも）
令和7年	7月	8日	食品衛生基準審議会農薬・動物用医薬品部会

● 食品衛生基準審議会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

大山	和俊	一般財団法人残留農薬研究所業務執行理事・化学部長
○折戸	謙介	学校法人麻布獣医学園理事（兼）麻布大学獣医学部教授
加藤	くみ子	北里大学薬学部教授
近藤	麻子	日本生活協同組合連合会組織推進本部本部長
須恵	雅之	東京農業大学応用生物科学部教授
瀧本	秀美	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所理事
田口	貴章	国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長
◎堤	智昭	国立医薬品食品衛生研究所食品部長
中島	美紀	金沢大学ナノ生命科学研究所（薬学系兼任）教授
野田	隆志	一般社団法人日本植物防疫協会技術顧問

（◎：部会長、○：部会長代理）

答申（案）

バリダマイシンについては、以下のとおり食品中の農薬の残留基準を設定することが適当である。

バリダマイシン

今回残留基準を設定する「バリダマイシン」の規制対象は、バリダマイシンAとする。

食品名	残留基準値 ppm
米（玄米をいう。）	0.2
とうもろこし	0.2
大豆	0.2
ばれいしょ	0.2
さといも類（やつがしらを含む。）	0.05
こんにゃくいも	0.05
てんさい	0.2
だいこん類（ラディッシュを含む。）の根	0.2
だいこん類（ラディッシュを含む。）の葉	1
はくさい	0.2
キャベツ	0.2
チンゲンサイ	15
ブロッコリー	4
レタス（サラダ菜及びちしやを含む。）	0.2
その他のきく科野菜 ^{注1)}	0.5
たまねぎ	0.2
ねぎ（リーキを含む。）	2
にんにく	0.2
にら	0.2
セロリ	2
みつば	0.5
トマト	0.2
なす	0.5
きゅうり（ガーキンを含む。）	0.2
ほうれんそう	20
しょうが	0.2
えだまめ	0.2

食品名	残留基準値 ppm
みかん（外果皮を含む。）	0.7
なつみかんの果実全体	0.5
レモン	0.2
オレンジ（ネーブルオレンジを含む。）	0.7
グレープフルーツ	0.5
ライム	0.2
その他のかんきつ類果実 ^{注2)}	0.7
もも（果皮及び種子を含む。）	0.5
すもも（プルーンを含む。）	0.3
うめ	1
いちご	1
茶	5
その他のスパイス ^{注3)}	2
はちみつ	0.05

注1) 「その他のきく科野菜」とは、きく科野菜のうち、ごぼう、サルシフィー、アーティチョーク、チコリ、エンダイブ、しゅんぎく、レタス（サラダ菜及びちしゃを含む。）及びハーブ以外のものをいう。

注2) 「その他のかんきつ類果実」とは、かんきつ類果実のうち、みかん、なつみかん、なつみかんの外果皮、なつみかんの果実全体、レモン、オレンジ（ネーブルオレンジを含む。）、グレープフルーツ、ライム及びスパイス以外のものをいう。

注3) 「その他のスパイス」とは、スパイスのうち、西洋わさび、わさびの根茎、にんにく、とうがらし、パプリカ、しょうが、レモンの果皮、オレンジ（ネーブルオレンジを含む。）の果皮、ゆずの果皮及びごまの種子以外のものをいう。

農薬評価書

バリダマイシン (第2版)

令和4年（2022年）8月
食品安全委員会

目 次

	頁
○ 審議の経緯.....	3
○ 食品安全委員会委員名簿.....	3
○ 食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿.....	4
○ 食品安全委員会農薬第四専門調査会専門委員名簿.....	6
○ 要 約.....	8
 I. 評価対象農薬の概要.....	 9
1. 用途.....	9
2. 有効成分の一般名.....	9
3. 化学名.....	9
4. 分子式.....	9
5. 分子量.....	9
6. 構造式.....	10
7. 開発の経緯.....	10
 II. 安全性に係る試験の概要.....	 11
1. 動物体内運命試験.....	11
(1) ラット.....	11
2. 植物体内運命試験.....	15
(1) 水稻.....	15
(2) レタス.....	16
(3) だいず.....	17
3. 土壌中運命試験.....	18
(1) 好氣的土壌中運命試験.....	18
(2) 好氣的湛水土壌中運命試験.....	18
(3) 土壌吸着試験.....	19
4. 水中運命試験.....	19
(1) 加水分解試験.....	19
(2) 水中光分解試験.....	20
5. 土壌残留試験.....	21
6. 作物等残留試験.....	21
(1) 作物残留試験.....	21
(2) 推定摂取量.....	21
7. 一般薬理試験.....	22
8. 急性毒性試験.....	23
9. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験.....	24

1 0. 亜急性毒性試験.....	24
(1) 3 か月間亜急性毒性試験 (ラット)	24
(2) 93 日間亜急性毒性試験 (ラット)	25
(3) 3 か月間亜急性毒性試験 (マウス)	26
(4) 89 日間亜急性毒性試験 (マウス)	26
(5) 90 日間亜急性毒性試験 (イヌ)	27
(6) 28 日間亜急性神経毒性試験 (ラット)	27
1 1. 慢性毒性試験及び発がん性試験.....	28
(1) 1 年間慢性毒性試験 (イヌ)	28
(2) 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験 (ラット)	28
(3) 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験 (マウス)	29
1 2. 生殖発生毒性試験.....	29
(1) 2 世代繁殖試験 (ラット) ①	29
(2) 2 世代繁殖試験 (ラット) ②<参考資料>	31
(3) 発生毒性試験 (ラット)	31
(4) 発生毒性試験 (ウサギ)	31
1 3. 遺伝毒性試験.....	32
1 4. その他の試験.....	34
(1) バリダマイシン原体投与による腸内細菌叢及び盲腸重量の変化 (マウス) ...	34
(2) バリダマイシンとアミノサイクリトール系抗生物質との間の交叉耐性に関する試験	34
Ⅲ. 食品健康影響評価.....	35
・ 別紙 1 : 代謝物/分解物/原体混在物略称.....	40
・ 別紙 2 : 検査値等略称.....	41
・ 別紙 3 : 作物残留試験成績 (国内)	42
・ 別紙 4 : 推定摂取量.....	59
・ 参照.....	60

＜審議の経緯＞

－第1版関係－

- 1972年 5月 2日 初回農薬登録
- 2005年 11月 29日 残留農薬基準告示（参照1）
- 2015年 12月 16日 農林水産省から厚生労働省へ農薬の適用拡大申請の連絡及び基準値設定の依頼について（適用拡大：ブロッコリー、うめ等）
- 2016年 3月 22日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発生食0322第8号）
- 2016年 3月 23日 関係書類の接受（参照2～35）
- 2016年 3月 29日 第600回食品安全委員会（要請事項説明）
- 2016年 7月 4日 第54回農薬専門調査会評価第二部会
- 2016年 12月 2日 追加資料受理（参照37）
- 2016年 12月 5日 第59回農薬専門調査会評価第二部会
- 2019年 12月 27日 追加資料受理（参照38～40）
- 2020年 6月 11日 第2回農薬第四専門調査会
- 2020年 7月 21日 第784回食品安全委員会（報告）
- 2020年 7月 22日 から8月20日まで 国民からの意見・情報の募集
- 2020年 9月 23日 農薬第四専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告
- 2020年 9月 29日 第791回食品安全委員会（報告）
（同日付け厚生労働大臣へ通知）（参照41）
- 2021年 8月 31日 残留農薬基準告示（参照42）

－第2版関係－

- 2021年 9月 15日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：こんにゃく、チンゲンサイ等）
- 2022年 7月 13日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発生食0713第4号）、関係書類の接受（参照43～55）
- 2022年 7月 19日 第867回食品安全委員会（要請事項説明）
- 2022年 8月 30日 第871回食品安全委員会（審議）
（8月31日付け厚生労働大臣へ通知）

＜食品安全委員会委員名簿＞

（2017年1月6日まで）	（2018年6月30日まで）	（2021年6月30日まで）
佐藤 洋（委員長）	佐藤 洋（委員長）	佐藤 洋（委員長）
山添 康（委員長代理）	山添 康（委員長代理）	山本茂貴（委員長代理）
熊谷 進	吉田 緑	川西 徹

吉田 緑
石井克枝
堀口逸子
村田容常

山本茂貴
石井克枝
堀口逸子
村田容常

吉田 緑
香西みどり
堀口逸子
吉田 充

(2021 年 7 月 1 日から)

山本茂貴 (委員長)
浅野 哲 (委員長代理 第一順位)
川西 徹 (委員長代理 第二順位)
脇 昌子 (委員長代理 第三順位)
香西みどり
松永和紀
吉田 充

<食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿>

(2016 年 3 月 31 日まで)

・幹事会

西川秋佳 (座長)	小澤正吾	林 真
納屋聖人 (座長代理)	三枝順三	本間正充
赤池昭紀	代田眞理子	松本清司
浅野 哲	永田 清	與語靖洋
上路雅子	長野嘉介	吉田 緑*

・評価第一部会

上路雅子 (座長)	清家伸康	藤本成明
赤池昭紀 (座長代理)	林 真	堀本政夫
相磯成敏	平塚 明	山崎浩史
浅野 哲	福井義浩	若栗 忍
篠原厚子		

・評価第二部会

吉田 緑 (座長) *	腰岡政二	本間正充
松本清司 (座長代理)	佐藤 洋	根岸友恵
小澤正吾	杉原数美	山本雅子
川口博明	細川正清	吉田 充
栗形麻樹子		

・評価第三部会

三枝順三 (座長)	高木篤也	中山真義
納屋聖人 (座長代理)	田村廣人	八田稔久

太田敏博	中島美紀	増村健一
小野 敦	永田 清	義澤克彦
・評価第四部会		
西川秋佳（座長）	佐々木有	本多一郎
長野嘉介（座長代理）	代田眞理子	山手丈至
井上 薫**	玉井郁巳	森田 健
加藤美紀	中塚敏夫	與語靖洋
		*: 2015 年 6 月 30 日まで
		** : 2015 年 9 月 30 日まで

(2018 年 3 月 31 日まで)

・幹事会		
西川秋佳（座長）	三枝順三	長野嘉介
納屋聖人（座長代理）	代田眞理子	林 真
浅野 哲	清家伸康	本間正充*
小野 敦	中島美紀	與語靖洋
・評価第一部会		
浅野 哲（座長）	栗形麻樹子	平林容子
平塚 明（座長代理）	佐藤 洋	本多一郎
堀本政夫（座長代理）	清家伸康	森田 健
相磯成敏	豊田武士	山本雅子
小澤正吾	林 真	若栗 忍
・評価第二部会		
三枝順三（座長）	高木篤也	八田稔久
小野 敦（座長代理）	中島美紀	福井義浩
納屋聖人（座長代理）	中島裕司	本間正充*
腰岡政二	中山真義	美谷島克宏
杉原数美	根岸友恵	義澤克彦
・評価第三部会		
西川秋佳（座長）	加藤美紀	高橋祐次
長野嘉介（座長代理）	川口博明	塚原伸治
與語靖洋（座長代理）	久野壽也	中塚敏夫
石井雄二	篠原厚子	増村健一
太田敏博	代田眞理子	吉田 充

* : 2017 年 9 月 30 日まで

(2020 年 3 月 31 日まで)

・幹事会

西川秋佳（座長）	代田眞理子	本間正充
納屋聖人（座長代理）	清家伸康	松本清司
赤池昭紀	中島美紀	森田 健
浅野 哲	永田 清	與語靖洋
小野 敦	長野嘉介	
・評価第一部会		
浅野 哲（座長）	篠原厚子	福井義浩
平塚 明（座長代理）	清家伸康	藤本成明
堀本政夫（座長代理）	豊田武士	森田 健
赤池昭紀	中塚敏夫	吉田 充*
石井雄二		
・評価第二部会		
松本清司（座長）	栗形麻樹子	山手丈至
平林容子（座長代理）	中島美紀	山本雅子
義澤克彦（座長代理）	本多一郎	若栗 忍
小澤正吾	増村健一	渡邊栄喜
久野壽也		
・評価第三部会		
小野 敦（座長）	佐藤 洋	中山真義
納屋聖人（座長代理）	杉原数美	八田稔久
美谷島克宏（座長代理）	高木篤也	藤井咲子
太田敏博	永田 清	安井 学
腰岡政二		
・評価第四部会		
本間正充（座長）	加藤美紀	玉井郁巳
長野嘉介（座長代理）	川口博明	中島裕司
與語靖洋（座長代理）	代田眞理子	西川秋佳
乾 秀之	高橋祐次	根岸友恵

*：2018年6月30日まで

＜食品安全委員会農薬第四専門調査会専門委員名簿＞

（2022年3月31日まで）

小野 敦（座長）	小林健一	中山真義
佐藤 洋（座長代理）	杉原数美	藤井咲子
石井雄二	高木篤也	本多一郎
太田敏博	永田 清	安井 学
楠原洋之		

<第 54 回農薬専門調査会評価第二部会専門参考人名簿>

永田 清

松本清司

<第 59 回農薬専門調査会評価第二部会専門参考人名簿>

永田 清

松本清司

<第 2 回農薬第四専門調査会専門参考人名簿>

納屋聖人

要 約

グリコシド系殺菌剤である「バリダマイシン」(CAS No. 37248-47-8)について、各種資料を用いて食品健康影響評価を実施した。第2版の改訂に当たっては、厚生労働省から、作物残留試験(こんにゃく、チンゲンサイ等)の成績が新たに提出された。

評価に用いた試験成績は、動物体内運命(ラット)、植物体内運命(水稻、レタス等)、作物残留、亜急性毒性(ラット、マウス及びイヌ)、亜急性神経毒性(ラット)、慢性毒性(イヌ)、慢性毒性/発がん性併合(ラット及びマウス)、2世代繁殖(ラット)、発生毒性(ラット及びウサギ)、遺伝毒性等である。

各種毒性試験結果から、バリダマイシン投与による影響は、主に体重(増加抑制:ラット)、消化管(下痢及び軟便)に認められた。神経毒性、発がん性、繁殖能に対する影響及び生体において問題となる遺伝毒性は認められなかった。

ウサギを用いた発生毒性試験において、母動物で著しい毒性影響がみられる用量で胎児に骨格異常及び外表異常が認められた。ラットでは催奇形性は認められなかった。

各種試験結果から、農産物中のばく露評価対象物質をバリダマイシン(親化合物のみ)と設定した。

各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた2年間慢性毒性/発がん性併合試験の40.4 mg/kg 体重/日(36.8 mg/kg 体重/日)であったことから、これを根拠として、安全係数100で除した0.36 mg/kg 体重/日(バリダマイシンA換算)を許容一日摂取量(ADI)と設定した。

また、バリダマイシンの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響に対する無毒性量のうち最小値は、イヌを用いた90日間亜急性毒性試験において得られた500 mg/kg 体重/日(327 mg/kg 体重/日)であったことから、これを根拠として、安全係数100で除した3.2 mg/kg 体重(バリダマイシンA換算)を急性参照用量(ARfD)と設定した。

I. 評価対象農薬の概要

1. 用途

殺菌剤

2. 有効成分の一般名

和名：バリダマイシン A

英名：validamycin A

3. 化学名

IUPAC

和名：1L-(1, 3, 4/2, 6)-2, 3-ジヒドロキシ-6-ヒドロキシメチル-4-
[(1*S*, 4*R*, 5*S*, 6*S*)-4, 5, 6-トリヒドロキシ-3-
ヒドロキシメチルシクロヘキサ-2-エニルアミノ]シクロヘキシル=
β-D-グルコピラノシド

英名：1L-(1, 3, 4/2, 6)-2, 3-dihydroxy-6-hydroxymethyl-4-
[(1*S*, 4*R*, 5*S*, 6*S*)-4, 5, 6-trihydroxy-3-
hydroxymethylcyclohex-2-enylamino]cyclohexyl
β-D-glucopyranoside

CAS (No. 37248-47-8)

和名：1, 5, 6-トリデオキシ-4-*O*-β-D-グルコピラノシル-5-
(ヒドロキシメチル)-1-[(1*S*, 4*R*, 5*S*, 6*S*)-4, 5, 6-トリヒドロキシ-3-
(ヒドロキシメチル)-2-シクロヘキセン-1-イル]アミノ]-D-*chiro*-
イノシトール

英名：1, 5, 6-trideoxy-4-*O*-β-D-glucopyranosyl-5-
(hydroxymethyl)-1-[(1*S*, 4*R*, 5*S*, 6*S*)-4, 5, 6-trihydroxy-3-
(hydroxymethyl)-2-cyclohexen-1-yl]amino] -D-*chiro*-
inositol

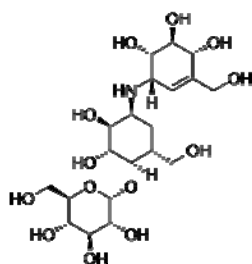
4. 分子式

C₂₀H₃₅NO₁₃

5. 分子量

497.50

6. 構造式



7. 開発の経緯

バリダマイシンは、武田薬品工業（株）により開発されたグリコシド系の殺菌剤である。本剤は、稲紋枯菌病に代表される *Rhizoctonia* 属菌及びその近縁の糸状菌に対してトレハラーゼ阻害活性により殺菌作用を発現すると考えられている。

我が国では 1972 年に初回農薬登録された。海外では韓国、台湾等で登録されている。

第 2 版では、農薬取締法に基づく農薬登録申請（適用拡大：こんにゃく、チンゲンサイ等）がなされている。

II. 安全性に係る試験の概要

各種運命試験 [II. 1～4] は、全ての炭素を ^{14}C で標識したグルコースを出発原料として発酵生産により調製し、全ての炭素が ^{14}C で標識されたバリダマイシン(以下「 ^{14}C -バリダマイシン」という。)を用いて実施された。残留放射能濃度及び代謝物濃度は、特に断りがない場合は比放射能(質量放射能)からバリダマイシンの濃度 (mg/kg 又は $\mu\text{g/g}$) に換算した値として示した。また、[II. 10～12] の各種毒性試験における平均検体摂取量については、検体純度により補正した換算値を括弧内に併記した。

代謝物/分解物/原体混在物略称及び検査値等略称は別紙 1 及び 2 に示されている。

1. 動物体内運命試験

(1) ラット

① 吸収

a. 血中濃度推移

SD ラット (一群雌雄各 3～4 匹) に ^{14}C -バリダマイシンを 50 mg/kg 体重 (以下 [1.] において「低用量」という。) 又は 1,000 mg/kg 体重 (以下 [1.] において「高用量」という。) で単回経口投与して、血中濃度推移について検討された。

血漿中薬物動態学的パラメータは表 1 に示されている。

血漿中放射能濃度は、低用量投与群では雌雄とも投与 0.5 時間後に、高用量投与群では雄で投与 1 時間後に、雌で投与 2 時間後に $C_{\max}$ に達した。半減期はいずれの投与群でも約 30 時間であった。 $C_{\max}$ 及び AUC に投与量比 (20 倍) に依存した増加は認められなかったが、これは腸内細菌により生成した代謝物 D が主に吸収されていると考えられることにより、高用量群では腸内細菌による代謝が飽和し、代謝物 D の生成量が投与量に比べて低下したためと考えられた。(参照 3、38)

表 1 血漿中薬物動態学的パラメータ

投与方法	単回経口			
	50 mg/kg 体重		1,000 mg/kg 体重	
性別	雄	雌	雄	雌
$C_{\max}$ ($\mu\text{g/g}$)	17.6	16.7	104	134
$T_{\max}$ (hr)	0.5	0.5	1	2
$T_{1/2}$ (hr)	30.9	27.6	31.5	29.8
$\text{AUC}_{0-\infty}$ (hr $\cdot\mu\text{g/g}$)	212	183	1,880	2,320

b. 吸収率

胆汁中排泄試験[1.(1)④b.]で得られた胆汁、尿、呼気及びカーカス¹の放射能の合計から、経口投与後 48 時間における吸収率は、少なくとも 37.6%と算出された。

② 分布

SD ラット（一群雌雄各 3 匹）に ¹⁴C-バリダマイシンを低用量又は高用量で単回経口投与して、体内分布試験が実施された。

主要臓器及び組織における残留放射能濃度は表 2 に示されている。

雌雄ともに組織中放射能はほとんどの臓器及び組織で T_{max} 時に最高濃度を示した。投与 24 時間後以降多くの臓器及び組織の放射能は緩やかに消失し、その消失パターンは血漿より緩徐であった。特に、肝臓、脊髄、胸腺、脳、副腎、下垂体及び骨髄においてその傾向は顕著であった。（参照 3、38）

表 2 主要臓器及び組織における残留放射能濃度（μg/g）

投与量	性別	T _{max} 時 ^a	投与 72 時間後
50 mg/kg 体重	雄	甲状腺(21.2)、血漿(17.4)、肝臓(17.1)、脳(16.0)、顎下腺(13.3)、血液(12.9)、下垂体(11.9)、腎臓(11.7)、脊髄(8.67)、脾臓(8.56)、血球(8.48)	肝臓(7.89)、脊髄(6.04)、胸腺(4.24)、脳(3.81)、副腎(3.28)、下垂体(2.85)、骨髄(2.76)、脾臓(2.58)、坐骨神経(2.51)、脂肪(2.48)、精巣(2.48)、毛+皮膚(2.27)、甲状腺(2.02)、腎臓(2.00)、肺(1.71)、顎下腺(1.70)、脾臓(1.44)、筋肉(1.34)、骨(1.22)、眼球(1.09)、血球(1.09)、血液(1.00)、血漿(0.66)
	雌	血漿(18.2)、脳(15.9)、肝臓(15.2)、下垂体(14.2)、血液(13.5)、顎下腺(13.0)、腎臓(9.20)、子宮(9.13)、脊髄(8.71)、毛+皮膚(8.69)、血球(8.44)	肝臓(7.00)、脊髄(5.28)、副腎(5.08)、胸腺(4.24)、脳(4.10)、下垂体(3.18)、骨髄(2.75)、脂肪(2.65)、脾臓(2.49)、甲状腺(2.48)、坐骨神経(2.38)、卵巣(2.36)、毛+皮膚(2.05)、子宮(2.00)、腎臓(1.89)、顎下腺(1.87)、肺(1.68)、骨(1.32)、筋肉(1.30)、脾臓(1.27)、心臓(0.89)、血球(0.84)、血液(0.80)、血漿(0.62)
1,000 mg/kg 体重	雄	肝臓(150)、血漿(133)、脳(130)、顎下腺(120)、下垂体(119)、血液(103)、甲状腺(93.2)、脊髄(88.0)、腎臓(83.6)、眼球(69.5)、血球(69.2)	肝臓(163)、脂肪(49.2)、脊髄(46.9)、胸腺(44.5)、副腎(42.9)、脳(35.1)、毛+皮膚(30.6)、甲状腺(28.4)、骨髄(27.5)、脾臓(26.7)、腎臓(24.3)、精巣(22.8)、肺(21.4)、坐骨神経(20.8)、顎下腺(18.8)、脾臓(16.6)、筋肉(14.0)、骨(11.4)、心臓(11.2)、血球(10.4)、血液(9.3)、眼球(8.9)、血漿(7.0)
	雌	顎下腺(241)、肝臓(195)、脳(183)、脊髄(159)、下垂体(158)、血漿(130)、腎臓(130)、脾臓(128)、血液(113)、骨髄(112)、胸腺(107)、卵巣(100)、血球(93.6)	肝臓(91.9)、脊髄(49.3)、副腎(45.8)、胸腺(36.4)、脳(33.4)、脂肪(33.0)、下垂体(32.1)、甲状腺(27.2)、骨髄(27.1)、卵巣(25.8)、脾臓(24.4)、坐骨神経(22.4)、腎臓(21.3)、毛+皮膚(19.7)、肺(18.7)、顎下腺(17.3)、筋肉(16.1)、子宮(15.8)、脾臓(15.2)、心臓(10.3)、血液(9.0)、血漿(7.3)、血球(7.0)

^a : 低用量投与群の雌雄で投与 0.5 時間後、高用量投与群の雄で投与 1 時間後、雌で投与 2 時間後

¹ 組織及び臓器を取り除いた残渣のことをカーカスという（以下同じ。）。

③ 代謝

a. 尿、糞及び呼気中代謝物

尿、糞及び呼気中排泄試験[1.(1)④a.]で得られた尿、糞及び呼気を試料として、代謝物同定・定量試験が実施された。

尿、糞及び呼気中の代謝物は表3に示されている。

低用量投与群では、尿中に未変化のバリダマイシンが1.0%TAR～1.2%TAR認められ、代謝物としてA及び3種の未同定代謝物が認められた。糞中には未変化のバリダマイシンは雄では検出されず、雌では2.9%TAR認められた。代謝物A及び2種の未同定代謝物が認められ、これらのうち代謝物Aは50.8%TAR～62.3%TAR認められた。呼気中にCO₂が18.8%TAR～19.6%TAR認められた。

高用量投与群では、尿中に未変化のバリダマイシンが1.0%TAR～1.1%TAR認められ、代謝物としてA及び1種の未同定代謝物が認められた。糞中の未変化のバリダマイシンは29.5%TAR～33.3%TARであり、代謝物としてAが42.7%TAR～45.2%TAR認められた。呼気中にCO₂が11.5%TAR～12.0%TAR認められた。

(参照3、38)

表3 尿、糞及び呼気中の代謝物 (%TAR)

試料	投与量	試料採取時間	性別	バリダマイシン	代謝物
尿	50 mg/kg 体重	投与後1日	雄	1.0	A(2.0)、未同定代謝物-1(0.6)、未同定代謝物-2(0.8)、未同定代謝物-3(0.3)
			雌	1.2	A(1.7)、未同定代謝物-1(0.7)、未同定代謝物-2(1.2)、未同定代謝物-3(0.8)
	雄		1.1	A(0.8)、未同定代謝物-2(0.5)	
	雌		1.0	A(0.7)、未同定代謝物-2(0.6)	
糞	50 mg/kg 体重	投与後1日	雄	ND	A(62.3)
			雌	2.9	A(50.8)、未同定代謝物-3(4.0)、未同定代謝物-7(2.2)
	雄		29.5	A(45.2)	
	雌		33.3	A(42.7)	
呼気	50 mg/kg 体重	投与後3日	雄		CO ₂ (18.8)
			雌		CO ₂ (19.6)
	雄			CO ₂ (12.0)	
	雌			CO ₂ (11.5)	

ND：検出されず /：分析せず

b. 尿、糞及び胆汁中代謝物

尿、糞及び胆汁中排泄試験[1.(1)④b.]で得られた尿、糞及び胆汁を試料として、代謝物同定・定量試験が実施された。

尿、糞及び胆汁中の代謝物は表4に示されている。

尿中の放射能の成分として未変化のバリダマイシンのほか、代謝物としてA及び4種の未同定代謝物が認められた。糞中には、未変化のバリダマイシンは認められず、代謝物としてA及び2種の未同定代謝物が認められた。胆汁中にも未変化のバリダマイシンは認められず、代謝物として3種の未同定代謝物が認められた。(参照3、38)

表4 尿、糞及び胆汁中の代謝物 (%TAR)

試料	投与量	性別	バリダマイシン	代謝物
尿	50 mg/kg 体重	雄	2.0	A(11.4)、未同定代謝物-7(0.9)、未同定代謝物-3(0.8)、未同定代謝物-1(0.5)、未同定代謝物-2(0.3)
糞			ND	A(38.2)、未同定代謝物-7(2.7)、未同定代謝物-3(1.9)
胆汁			ND	未同定代謝物-4(0.4)、未同定代謝物-6(0.3)、未同定代謝物-5(0.1)

ND：検出されず

バリダマイシンの主要代謝経路は、主に腸内細菌によるグリコシド結合の加水分解による代謝物A及びD(D-グルコース)の生成並びに吸収された代謝物Dの代謝によるCO₂の生成であると考えられた。

④ 排泄

a. 尿、糞及び呼気中排泄

SDラット（一群雌雄各4匹）に、¹⁴C-バリダマイシンを低用量又は高用量で単回経口投与して、尿、糞及び呼気中排泄試験が実施された。

投与後72時間の尿、糞及び呼気中排泄率は表5に示されている。

雌雄ともに排泄は速やかで、投与後24時間で86%TAR以上が尿、糞及び呼気中に排泄され、投与後72時間では92%TAR以上となった。主に糞中に排泄された。(参照3、38)

表 5 投与後 72 時間の尿、糞及び呼気中排泄率 (%TAR)

投与方法	単回経口			
投与量	50 mg/kg 体重		1,000 mg/kg 体重	
性別	雄	雌	雄	雌
尿	5.0	6.2	2.7	2.5
糞	68.4	66.7	80.5	82.0
呼気	18.8	19.6	12.0	11.5
カーカス	4.5	3.9	2.9	1.9
合計	96.7	96.4	98.0	97.9

b. 尿、糞及び胆汁中排泄

胆管カニューレを挿入した SD ラット（一群雄 4 匹）に、 ^{14}C -バリダマイシンを低用量で単回経口投与して、尿、糞及び胆汁中排泄試験が実施された。

投与後 48 時間の尿、糞及び胆汁中排泄率は表 6 に示されている。

排泄は速やかで、投与後 48 時間で 75.6%TAR が尿、糞及び呼気中に排泄され、投与後 72 時間では 92%TAR 以上となった。主に糞中に排泄され、胆汁中への排泄は僅かであった。（参照 3、38）

表 6 投与後 48 時間の尿、糞及び胆汁中排泄率 (%TAR)

投与量	50 mg/kg 体重
性別	雄
胆汁	0.9
尿	16.2
呼気	13.7
カーカス	6.8
糞	45.7
消化管内容物	8.3
合計	91.6

2. 植物体内運命試験

(1) 水稻

水稻（品種：コシヒカリ）の 4 葉期の苗に、液剤に調製した ^{14}C -バリダマイシンを 0.0519 mg/ポット（低濃度処理区、15 g ai/ha 相当、慣行濃度の 2.5 倍）又は 0.173 mg/ポット（高濃度処理区、50 g ai/ha 相当、慣行濃度の 8.3 倍）で植穴処理し、その後液剤に調製した ^{14}C -バリダマイシンを 0.779 mg/ポット（低濃度処理区、225 g ai/ha 相当、慣行濃度の 1.9 倍）又は 2.60 mg/ポット（高濃度処理区、750 g ai/ha 相当、慣行用量の 6.3 倍）の用量で植物全体に 7 日間隔で 5 回葉面散布した。最終処理 7 日後及び 14 日後に稲わら（茎葉部）、穀粒（もみ殻及び玄米）が採取され、植物体内運命試験が実施された。

水稻試料における最終処理 14 日後の残留放射能分布及び代謝物は表 7 に示されている。

残留放射能濃度は、稲わらで最も高く、次いでもみ殻、玄米の順であった。

稲わら及びもみ殻中の主要成分は、未変化のバリダマイシンであり、代謝物として A が最大 24.9%TRR 認められた。玄米中の主要成分は、代謝物 A で最大 14.6%TRR 認められた。ほかに極性成分が多数検出されたが、いずれも 10%TRR 未満であった。（参照 3、38）

表 7 水稻試料における最終処理 14 日後の残留放射能分布及び代謝物 (%TRR)

区分	処理量 (処理方法)	試料	総残留 放射能 (mg/kg)	抽出性放射能		抽出 残渣
				バリダ マイシン	代謝物	
低濃度 処理区	0.0519 mg/ ポット (育苗箱施用) + 0.779 mg/ ポット×5 (葉面散布)	稲わら	14.9	51.9	A(24.9)、 極性成分 ^a (17.4)	5.8
		もみ殻	7.27	34.0	A(13.8)、 極性成分 ^a (29.7)	22.5
		玄米	0.333	5.3	A(13.4)、 極性成分 ^a (24.8)	56.5
高濃度 処理区	0.173 mg/ ポット (育苗箱施用) + 2.60 mg/ ポット×5 (葉面散布)	稲わら	45.5	52.8	A(18.6)、 極性成分 ^a (23.4)	5.2
		もみ殻	12.8	36.2	A(14.0)、 極性成分 ^a (29.4)	20.4
		玄米	0.469	5.8	A(14.6)、 極性成分 ^a (20.6)	59.0

^a : 複数の成分を含む。

(2) レタス

レタス（品種：Simpson Elite）の播種 13 日後に、液剤に調製した ¹⁴C-バリダマイシンを 3.51 mg/ポット（低濃度処理区、570 g ai/ha 相当、慣行濃度の 3 倍）又は 11.7 mg/ポット（高濃度処理区、1,900 g ai/ha 相当、慣行濃度の 10 倍）の用量で 7 日間隔で 3 回葉面処理し、最終処理 7 日後に試料を採取して、植物体内運命試験が実施された。

レタス試料における残留放射能分布及び代謝物は表 8 に示されている。

レタス試料中の主要成分は、未変化のバリダマイシンで、10%TRR を超える代謝物として A が認められた。このほか、高濃度処理区で代謝物 B 及び C が認められたが、いずれも 10%TRR 未満であった。（参照 3、38）

表 8 レタス試料における残留放射能分布及び代謝物 (%TRR)

区分	処理量	総残留放射能 (mg/kg)	抽出性放射能		抽出残渣
			バリダマイシン	代謝物	
低濃度処理区	3.51 mg/ポット×3	8.15	54.3	A(35.1)、未同定成分 ^a (3.4)	7.3
高濃度処理区	11.7 mg/ポット×3	21.5	76.0	A(16.8)、B(1.6)、C(0.2)、未同定成分 ^a (3.1)	2.3

^a : 複数の成分を含む。

(3) だいず

だいず（品種：S27-R1）に、液剤に調製した ¹⁴C-バリダマイシンを 5.54 mg/ポット（低濃度処理区、900 g ai/ha 相当、慣行濃度の 3 倍）又は 18.5 mg/ポット（高濃度処理区、3,000 g ai/ha 相当、慣行濃度の 10 倍）の濃度で 7 日間隔で 3 回葉面散布し、最終処理 7 日後に葉部、さや及び子実を採取して、植物体内運命試験が実施された。

だいず試料における残留放射能分布及び代謝物は表 9 に示されている。

残留放射能濃度は葉部で最も高く、次いでさや、子実の順であった。

主要成分は葉部、さや及び子実のいずれにおいても未変化のバリダマイシンで、低濃度処理区の子実においては、代謝物 A が 10%TRR を超えて認められた。そのほか極性成分が多数検出されたが、いずれも 10%TRR 未満であった。（参照 3、38）

表 9 だいず試料における残留放射能分布及び代謝物 (%TRR)

区分	処理量	試料	総残留放射能 (mg/kg)	抽出性放射能		抽出残渣
				バリダマイシン	代謝物	
低濃度処理区	5.54 mg/ポット×3	葉部	55.7	93.0	A(1.2)、極性成分 ^a (5.4)	0.5
		さや	7.91	89.3	A(4.1)、極性成分 ^a (5.4)	1.1
		子実	0.229	27.3	A(10.7)、極性成分 ^a (11.6)	50.4
高濃度処理区	18.5 mg/ポット×3	葉部	172	91.7	A(2.3)、極性成分 ^a (5.7)	0.3
		さや	23.7	91.4	A(0.6)、極性成分 ^a (7.0)	1.0
		子実	0.576	36.6	極性成分 ^a (16.1)	47.3

^a : 複数の成分を含む。

植物体におけるバリダマイシンの主要代謝経路は、グリコシド結合の加水分解による代謝物 A の生成であり、更に B、C、極性成分等に代謝されと考えられた。

3. 土壌中運命試験

(1) 好氣的土壌中運命試験

埴壤土（茨城）に ^{14}C -バリダマイシンを 2.0 mg/kg 乾土となるように混和処理し、 $25 \pm 2^\circ\text{C}$ 、暗所条件下で 180 日間インキュベートして、好氣的土壌中運命試験が実施された。

土壌抽出液中のバリダマイシン及び分解物の経時変化は表 10 に示されている。

主要分解物は A が処理 1 日後に 49.9%TAR 認められた。このほか、微量分解物として B、C 及び D が同定された。生成した分解物 A は速やかに分解された。 $^{14}\text{CO}_2$ は処理後 180 日に 54.8%TAR となった。土壌抽出物残渣中の総放射能は処理 14 日後に最大 29.8%TAR となり、フルボ酸に 9.6%TAR、フミン酸に 3.0%TAR 及びヒューミン画分に 15.1%TAR 認められた。

好氣的土壌におけるバリダマイシンの推定半減期は 0.05 日であった。(参照 3、38)

表 10 土壌抽出液中のバリダマイシン及び分解物の経時変化 (%TAR)

同定化合物	試料採取時間			
	0 日	1 日	14 日	180 日
バリダマイシン	95.6	4.6	0.1	ND
分解物 A	ND	49.9	4.8	7.0
分解物 B	ND	0.3	ND	ND
分解物 C	ND	2.1	8.4	ND
分解物 D	ND	4.0	3.6	1.8
未同定成分 ^a	ND	3.5	7.1	12.3
$^{14}\text{CO}_2$	NA	14.0	48.5	54.8
揮発性有機物質	NA	ND	ND	ND

ND：検出されず NA：分析せず

^a：複数の成分を含む。

(2) 好氣的湛水土壌中運命試験

湛水深約 1.5 cm とした滅菌又は非滅菌の埴壤土（茨城）を $25 \pm 2^\circ\text{C}$ の暗所で約 2 週間プレインキュベート後、 ^{14}C -バリダマイシンを 2.0 mg/kg 乾土となるように処理し、 $25 \pm 2^\circ\text{C}$ 、暗所条件下で 30 日又は 60 日間インキュベートして、好氣的湛水土壌中運命試験が実施された。

試験系全体（水層及び土壌層）におけるバリダマイシン及び分解物の経時変化は表 11 に示されている。

非滅菌条件下において、バリダマイシンは水層及び土壌層を合わせた試験系全体において速やかに分解した。主要分解物として A が処理 1 日後に土壌中で最大 31.5%TAR 検出された。分解物 A の試験系全体における推定半減期は 27.0 日と算出された。その他の分解物として B、C 及び D が処理 3 日後に試験系全体で

4.6%TAR～6.9%TAR 認められた。 $^{14}\text{CO}_2$ は処理後 60 日に 66.9 %TAR 認められた。

非滅菌及び滅菌条件下におけるバリダマイシンの土壌中の推定半減期は、それぞれ 0.42 日及び 7.4 日と算出された。（参照 3、38）

表 11 試験系全体（水層及び土壌層）におけるバリダマイシン及び分解物の経時変化（%TAR）

同定化合物	試料採取時間			
	0 日	1 日	3 日	60 日
バリダマイシン	97.6	19.4	ND	ND
分解物 A	ND	31.5	22.3	5.5
分解物 B	ND	2.4	6.9	ND
分解物 C	ND	2.7	5.9	ND
分解物 D	ND	2.7	4.6	ND
未同定成分	ND	0.3	3.2	4.4
$^{14}\text{CO}_2$	NA	9.6	16.6	66.9
揮発性有機物質	NA	<0.1	0.1	0.2

ND：検出されず NA：分析せず

好氣的土壌中におけるバリダマイシンの主要分解経路は、グリコシド結合の加水分解による分解物 A の生成並びに分解物 A の更なる分解による分解物 B 及び C の生成であり、最終的に CO_2 まで無機化されるか、土壌結合性残留物として組み込まれると考えられた。

（3）土壌吸着試験

4 種類の国内土壌〔重埴土（茨城）、砂壤土（香川）、軽埴土①（茨城）、軽埴土②（宮崎）〕を用いて、バリダマイシンの土壌吸着試験が実施された。

バリダマイシンは 0.01 M 塩化カルシウム溶液中で安定であるが、土壌とともに 0.01 M 塩化カルシウム溶液中で 16 時間振とうすると不安定であることが判明したため、土壌吸着係数を求めることは困難と考えられた。（参照 3、38）

4. 水中運命試験

（1）加水分解試験

pH 4.0（クエン酸緩衝液）、pH 7.0（リン酸緩衝液）及び pH 9.0（ホウ酸緩衝液）の 3 種類の緩衝液に、 ^{14}C -バリダマイシンを 5 $\mu\text{g/mL}$ の濃度で添加し、50 $\pm 1^\circ\text{C}$ の暗条件下で 5 日間インキュベートして、加水分解試験が実施された。

いずれの緩衝液においても処理 5 日後の分解率は 10%未満であり、バリダマイシンは安定であった。

50 $^\circ\text{C}$ における試験結果から算出された 25 $^\circ\text{C}$ における推定半減期は約 1 年以上

であった。（参照 3、38）

（２）水中光分解試験

滅菌自然水（湖水、米国）又は滅菌蒸留水（pH6.8）に、 ^{14}C -バリダマイシンを 5 mg/L の濃度で添加し、 $25\pm 2^\circ\text{C}$ で 9 日間、キセノン光（光強度：49.1 W/m²、波長：290 nm 以下をフィルターでカット）を照射して、水中光分解試験が実施された。また、暗所対照区が設定された。

自然水及び蒸留水中におけるバリダマイシン及び分解物の経時変化は表 12 に示されている。

バリダマイシンは照射後速やかに分解され、主要分解物として D を生成した。暗所対照区では分解は認められなかった。

バリダマイシンの推定半減期は、自然水及び蒸留水でそれぞれ 1.8 日及び 10.1 日（東京・春における太陽光換算でそれぞれ 11.4 日及び 63.7 日）であった。暗所対照区の推定半減期は、滅菌自然水及び滅菌蒸留水でそれぞれ 182 日及び 347 日であった。（参照 3、38）

表 12 自然水及び蒸留水のバリダマイシン及び分解物の経時変化（%TAR）

試料	同定化合物	試料採取時間			
		0 日	2 日	7 日	9 日
自然水	バリダマイシン	102	69.5	2.8	ND
	分解物 D	ND	9.0	33.2	38.4
	$^{14}\text{CO}_2$	NA	0.6	6.4	9.1
	揮発性有機物質	NA	ND	ND	0.1
	未同定成分 ^a	ND	20.8	59.2	47.8
蒸留水	バリダマイシン	99.7	89.5	69.2	49.3
	分解物 D	ND	ND	5.0	12.4
	$^{14}\text{CO}_2$	NA	0.8	4.1	5.6
	揮発性有機物質	NA	ND	ND	ND
	未同定成分 ^a	ND	9.3	19.5	29.0

ND：検出されず NA：測定せず

^a：複数の成分を含む。

5. 土壌残留試験

火山灰土・軽壤土（東京）、沖積土・埴壤土（三重）、火山灰土・埴壤土（東京）、沖積土・砂壤土（岡山）及び火山灰土・壤土（東京）を用いて、バリダマイシンを分析対象化合物とした土壌残留試験（ほ場及び容器内）が実施された。

結果は表 13 に示されている。（参照 3、38）

表 13 土壌残留試験成績（推定半減期）

試験	条件	濃度 ^a	土壌	推定半減期
ほ場試験	水田	0.12 kg ai/ha	火山灰土・軽埴土	—
			沖積土・埴壤土	—
	畑地	1.8 kg ai/ha	火山灰土・埴壤土	—
			沖積土・砂壤土	—
容器内試験	水田状態	5 mg/kg 乾土	火山灰土・軽埴土	約 1 時間
			沖積土・埴壤土	約 2 時間
	畑地状態	5 mg/kg 乾土	火山灰土・壤土	約 1 時間
			沖積土・砂壤土	1 時間

^a：水田ほ場では 0.3%粉剤、畑地ほ場では 3.0%液剤、容器内試験では純品を使用

—：結果が全て定量限界未満であったため、推定半減期は算出できず。

6. 作物等残留試験

（1）作物残留試験

国内において、水稻、果実、野菜等を用い、バリダマイシン及び代謝物 A を分析対象化合物とした作物残留試験が実施された。

結果は別紙 3 に示されている。

バリダマイシンの最大残留値は最終散布 1 日後に収穫したほうれんそう（茎葉）の 11.8 mg/kg であった。代謝物 A の最大残留値は、最終散布 3 日後に収穫されたほうれんそう（茎葉）の 10.6 mg/kg であった。（参照 3～32、38、44～55）

（2）推定摂取量

別紙 3 の作物残留試験の分析値を用いて、バリダマイシン（親化合物のみ）をばく露評価対象物質とした際に、食品中から摂取される推定摂取量が表 14 に示されている（別紙 4 参照）。

なお、本推定摂取量の算定は、登録されている又は申請された使用方法からバリダマイシンが最大の残留を示す使用条件で、全ての適用作物に使用され、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下に行った。

表 14 食品中から摂取されるバリダマイシンの推定摂取量

	国民平均 (体重：55.1 kg)	小児(1～6 歳) (体重：16.5 kg)	妊婦 (体重：58.5 kg)	高齢者(65 歳以上) (体重：56.1 kg)
推定摂取量 (μg /人/日)	197	87.2	203	263

7. 一般薬理試験

バリダマイシン（原体）のマウス及びイヌを用いた一般薬理試験が実施された。
結果は表 15 に示されている。（参照 3、38）

表 15 一般薬理試験概要

試験の種類		動物種	動物数 /群	投与量 (mg/kg 体重) (投与経路)	最大 無作用量 (mg/kg 体重)	最小 作用量 (mg/kg 体重)	結果の概要
中 枢 神 経 系	一般状態、 体温 (Irwin 法)	ICR マウス	雄 12	0、1,500、 5,000、15,000 (経口) ^a	1,500	5,000	5,000 mg/kg 体重以上： 体温低下
	呼吸、 血圧、 心拍数、 心電図、 血流量	ビーグル犬	雌 3	0、300、 1,000、3,000 (静脈内) ^b	300	1,000	1,000 mg/kg 体重以上： 血流量の減少 3,000 mg/kg 体重： QRS 波の増高、血圧 下降及び血流量減少

注) 溶媒として、^aは蒸留水、^bは生理食塩水を用いた。

注) 純度 93.7%の原体を用いた。

8. 急性毒性試験

バリダマイシン（原体）のラット及びマウスを用いた急性毒性試験が実施された。
結果は表 16 に示されている。（参照 3、38）

表 16 急性毒性試験結果概要（原体）

投与経路	動物種	LD ₅₀ (mg/kg 体重)		観察された症状
		雄	雌	
経口	Wistar ラット 雌雄各 10 匹 ^{a、d}	>20,000 (>16,200)	>20,000 (>16,200)	投与量：10,000、15,000、20,000 mg/kg 体重 雌雄：10,000 mg/kg 体重以上で下痢 (投与 24 時間後以降) 死亡例なし
	SD ラット 雌雄各 10 匹 ^{a、d}	>20,000 (>16,200)	>20,000 (>16,200)	投与量：20,000 mg/kg 体重 症状及び死亡例なし
	SD ラット 雌各 10 匹 ^{b、e}	—	>2,000 (>1,270)	投与量：2,000 mg/kg 体重 雌：粘液便（投与 1 日後） 死亡例なし
	ICR マウス 雌雄各 10 匹 ^{a、d}	>20,000 (>16,200)	>20,000 (>16,200)	投与量：10,000、15,000、20,000 mg/kg 体重 雌雄：10,000 mg/kg 体重以上で一過性 の下痢(投与 24 時間以内) 死亡例なし
	ICR マウス 雌雄各 10 匹 ^{a、d}	>20,000 (>16,200)	>20,000 (>16,200)	投与量：20,000 mg/kg 体重 症状及び死亡例なし
経皮	Wistar ラット 雌雄各 10 匹 ^f	>5,000 (>4,680)	>5,000 (>4,680)	症状及び死亡例なし
	Wistar ラット 雌雄各 10 匹 ^g	>2,200 (>2,000)	>2,200 (>2,000)	症状及び死亡例なし
	Wistar ラット 雌雄各 10 匹 ^h	>4,300 (>2,000)	>4,300 (>2,000)	症状及び死亡例なし
	SD ラット 雌雄各 5 匹 ^e	>2,000 (>1,270)	>2,000 (>1,270)	症状及び死亡例なし
皮下	SD ラット 雌雄各 10 匹 ^{c、d}	>12,800 (>10,400)	>12,800 (>10,400)	雌雄：10,240 mg/kg 体重以上で自発運動低下、円背位 12,800 mg/kg 体重の雌雄で死亡例
	SD ラット 雌雄各 10 匹 ^{c、d}	>15,000 (>12,200)	>15,000 (>12,200)	雌雄：15,000 mg/kg 体重で呼吸及び自発運動低下、伏臥位、呼吸困難 15,000 mg/kg 体重の雌雄で死亡例
	ICR マウス 雌雄各 10 匹 ^{c、d}	>16,320 (>13,200)	>16,320 (>13,200)	雌雄：9,650 mg/kg 体重以上で自発運動低下、円背位 死亡例なし
	ICR マウス 雌雄各 10 匹 ^{c、d}	>15,000 (>12,200)	>15,000 (>12,200)	症状及び死亡例なし

腹腔内	SD ラット 雌雄各 10 匹 ^{c, d}	10,000 (8,100)	10,600 (8,590)	雌雄：10,000 mg/kg 体重以上で不安定歩行、腹式呼吸の不整、運動失調 10,000 mg/kg 体重以上の雌雄で死亡例
	ICR マウス 雌雄各 10 匹 ^{c, d}	13,000 (10,500)	13,100 (10,600)	雌雄：10,000 mg/kg 体重以上で不安定歩行、腹式呼吸の不整、運動失調 12,500 mg/kg 体重以上の雌雄で死亡例
静脈内	SD ラット 雌雄各 10 匹 ^{c, d}	7,500 (6,080)	7,200 (5,830)	雌雄：5,000 mg/kg 体重以上で促迫呼吸、眼球突出、耳介及び四肢末端に発赤及び浮腫、行動緩慢、円背位、うずくまり 5,000 mg/kg 体重以上の雌雄で死亡例
	ICR マウス 雌雄各 10 匹 ^{c, d}	>10,000 (>8,100)	>10,000 (>8,100)	雌雄：眼球突出、呼吸促迫、行動鈍化 死亡例なし
吸入	SD ラット 雌雄各 5 匹 ^{g, i}	LC ₅₀ (mg/m ³)		雌雄：鼻部周囲に赤色物質 雄：脱毛 雌：鼻部周囲に淡褐色物質 死亡例なし
		>5,000 (>4,600)		
	SD ラット 雌雄各 5 匹 ^{e, j}	>3,220 (>2,040)		症状及び死亡例なし

注) 0内はバリダマイシン A 換算値

a：溶媒として蒸留水を用いた。

b：溶媒として注射用水を用いた。

c：溶媒として生理食塩水を用いた。

d：純度 81.0%の検体を用いた。

e：純度 63.3%の検体を用いた。

f：純度 93.5%の検体を用いた。

g：純度 91.9%の検体を用いた。

h：純度 46.0%の検体を用いた。

i：4 時間ばく露（ダスト）

j：250 分間ばく露（ミスト）

9. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験

NZW ウサギを用いた眼及び皮膚刺激性試験（原体純度 63.3%）が実施され、軽度な眼粘膜刺激性が認められたが、皮膚刺激性は認められなかった。

Hartley モルモットを用いた皮膚感作性試験（Buehler 法、原体純度 93.7%）が実施され、皮膚感作性は認められなかった。（参照 3、38）

10. 亜急性毒性試験

（1）3 か月間亜急性毒性試験（ラット）

Wistar ラット（一群雌雄各 15 匹）を用いた混餌投与〔原体（純度 79.4%）：0、1,000、10,000 及び 100,000 ppm：平均検体摂取量は表 17 参照〕による 3 か月間亜急性毒性試験が実施された。

表 17 3 か月間亜急性毒性試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		1,000 ppm	10,000 ppm	100,000 ppm
平均検体摂取量 ^a (mg/kg 体重/日)	雄	100 (79.4)	1,000 (794)	10,000 (7,940)
	雌	100 (79.4)	1,000 (794)	10,000 (7,940)

注) 0内はバリダマイシン A 換算値

^a : 文献に基づく平均値から求めた摂取量 (参照 36)

各投与群で認められた毒性所見は表 18 に示されている。

本試験において、100,000 ppm 投与群の雌雄で下痢、軟便、盲腸絶対重量増加等が認められたことから、無毒性量は雌雄とも 10,000 ppm [1,000 mg/kg 体重/日 (794 mg/kg 体重/日)] であると考えられた。(参照 3、38)

表 18 3 か月間亜急性毒性試験（ラット）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
100,000 ppm	・下痢及び軟便(投与 1 週以降) ・運動量減少 ・盲腸絶対重量増加	・下痢及び軟便(投与 5 日以降) ・盲腸絶対重量増加
10,000 ppm 以下	毒性所見なし	毒性所見なし

(2) 93 日間亜急性毒性試験（ラット）

Wistar ラット（一群雌雄各 15 匹）を用いた混餌投与 [原体（純度 79.4%）：0、1,000、10,000 及び 100,000 ppm：平均検体摂取量は表 19 参照] による 93 日間亜急性毒性試験が実施された。

表 19 93 日間亜急性毒性試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		1,000 ppm	10,000 ppm	100,000 ppm
平均検体摂取量 ^a (mg/kg 体重/日)	雄	100 (79.4)	1,000 (794)	10,000 (7,940)
	雌	100 (79.4)	1,000 (794)	10,000 (7,940)

注) 0内はバリダマイシン A 換算値

^a : 文献に基づく平均値から求めた摂取量 (参照 36)

各投与群で認められた毒性所見は表 20 に示されている。

本試験において、10,000 ppm 以上投与群の雄及び 100,000 ppm 投与群の雌で盲腸絶対重量増加等が認められたことから、無毒性量は雄で 1,000 ppm [100 mg/kg 体重/日 (79.4 mg/kg 体重/日)]、雌で 10,000 ppm [1,000 mg/kg 体重/日 (794 mg/kg 体重/日)] であると考えられた。(参照 3、38)

表 20 93 日間亜急性毒性試験（ラット）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
100,000 ppm	・下痢及び軟便(投与 3 日以降) ・摂水量増加	・下痢及び軟便(投与 3 日以降) ・摂水量増加 ・盲腸絶対重量増加 [§]
10,000 ppm 以上	・盲腸絶対重量増加	10,000 ppm 以下 毒性所見なし
1,000 ppm	毒性所見なし	

§：統計学的有意差はないが、検体投与の影響と判断した。

（３）３か月間亜急性毒性試験（マウス）

dd マウス（一群雌雄各 15 匹）を用いた混餌投与〔原体（純度 79.4%）：0、1,000、10,000 及び 100,000 ppm：平均検体摂取量は表 21 参照〕による 3 か月間亜急性毒性試験が実施された。

表 21 3 か月間亜急性毒性試験（マウス）の平均検体摂取量

投与群		1,000 ppm	10,000 ppm	100,000 ppm
平均検体摂取量 ^a (mg/kg 体重/日)	雄	143 (114)	1,430 (1,140)	14,300 (11,400)
	雌	143 (114)	1,430 (1,140)	14,300 (11,400)

注) 0内はバリダマイシン A 換算値

a：文献に基づく平均値から求めた摂取量（参照 36）

本試験において、100,000 ppm 投与群の雌雄で盲腸絶対重量増加が認められたことから、無毒性量は雌雄とも 10,000 ppm [1,430 mg/kg 体重/日 (1,140 mg/kg 体重/日)] であると考えられた。（参照 3、38）

（４）89 日間亜急性毒性試験（マウス）

dd マウス（一群雌雄各 15 匹）を用いた混餌投与〔原体（純度 79.4%）：0、1,000、10,000 及び 100,000 ppm：平均検体摂取量は表 22 参照〕による 89 日間亜急性毒性試験が実施された。なお、血液学的検査及び血液生化学的検査において、採血量が十分でなく、検査できない項目があった。

表 22 89 日間亜急性毒性試験（マウス）の平均検体摂取量

投与群		1,000 ppm	10,000 ppm	100,000 ppm
平均検体摂取量 ^a (mg/kg 体重/日)	雄	143 (114)	1,430 (1,140)	14,300 (11,400)
	雌	143 (114)	1,430 (1,140)	14,300 (11,400)

注) 0内はバリダマイシン A 換算値

a：文献に基づく平均値から求めた摂取量（参照 36）

各投与群で認められた毒性所見は表 23 に示されている。

本試験において、100,000 ppm 投与群の雌雄で下痢、軟便等が認められたことから、無毒性量は雌雄とも 10,000 ppm [1,430 mg/kg 体重/日 (1,140 mg/kg 体重/日)] であると考えられた。(参照 3、38)

表 23 89 日間亜急性毒性試験（マウス）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
100,000 ppm	・下痢及び軟便(投与 3 日以降) ・摂水量増加	・下痢及び軟便(投与 3 日以降) ・摂水量増加 ・盲腸絶対重量増加
10,000 ppm 以下	毒性所見なし	毒性所見なし

(5) 90 日間亜急性毒性試験（イヌ）

ビーグル犬（一群雌雄各 4 匹）を用いたカプセル経口投与〔原体（純度 65.3%）：0、250、500 及び 1,000 mg/kg 体重/日（バリタマイシン A 換算値：0、163、327 及び 653 mg/kg 体重/日）〕による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。

各投与群で認められた毒性所見は表 24 に示されている。

本試験において、500 mg/kg 体重/日以上投与群の雌雄で軟便² が認められたことから、無毒性量は雌雄とも 250 mg/kg 体重/日（163 mg/kg 体重/日）であると考えられた。(参照 3、33、38)

表 24 90 日間亜急性毒性試験（イヌ）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
500 mg/kg 体重/日以上	・軟便(投与 4 日以降) ^a	・軟便(投与 2 日以降)
250 mg/kg 体重/日	毒性所見なし	毒性所見なし

^a：1,000 mg/kg 体重/日投与群では投与 2 日以降。

(6) 28 日間亜急性神経毒性試験（ラット）

SD ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた混餌投与〔原体（純度 66.7%）：0、1,000、3,000 及び 10,000 ppm：平均検体摂取量は表 25 参照〕による 28 日間亜急性神経毒性試験が実施された。

² 500 mg/kg 体重/日投与群においては、発生が散発的であったことから、ARfD のエンドポイントとしなかった。

表 25 28 日間亜急性神経毒性試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		1,000 ppm	3,000 ppm	10,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	87.3 (58.2)	260 (177)	886 (591)
	雌	93.1 (62.1)	277 (185)	897 (599)

注) 0内はバリダマイシン A 換算値

本試験において、いずれの投与群においても毒性影響が認められなかったことから、無毒性量は雌雄とも本試験の最高用量 10,000 ppm [雄：886 mg/kg 体重/日 (591 mg/kg 体重/日)、雌：897 mg/kg 体重/日 (599 mg/kg 体重/日)] であると考えられた。亜急性神経毒性は認められなかった。（参照 3、38）

1 1. 慢性毒性試験及び発がん性試験

(1) 1 年間慢性毒性試験（イヌ）

ビーグル犬（一群雌雄各 4 匹）を用いたカプセル経口投与 [原体（純度 65.3%）：0、50、150 及び 500 mg/kg 体重/日（バリダマイシン A 換算値：0、32.7、98.0 及び 327 mg/kg 体重/日）] による 1 年間慢性毒性試験が実施された。

本試験において、500 mg/kg 体重/日投与群の雌雄で軟便（投与 1～7 日以降）が認められたことから、無毒性量は雌雄とも 150 mg/kg 体重/日（98.0 mg/kg 体重/日）であると考えられた。（参照 3、34、38）

(2) 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）

SD ラット [主群（24 か月と殺群）：一群雌雄各 34 匹、衛星群（6 か月、12 か月及び 18 か月と殺群：一群雌雄各 7～8 匹）] を用いた混餌投与 [原体（純度 91%）：0、100、1,000 及び 10,000 ppm：平均検体摂取量は表 26 参照] による 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験が実施された。

表 26 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		100 ppm	1,000 ppm	10,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	4.05 (3.69)	40.4 (36.8)	414 (377)
	雌	4.59 (4.12)	47.2 (43.0)	469 (427)

注) 0内はバリダマイシン A 換算値

検体投与により発生頻度の増加した腫瘍性病変は認められなかった。

本試験において、10,000 ppm 投与群の雄で体重増加抑制（投与 2 週以降）が認められ、雌ではいずれの投与群においても毒性影響は認められなかったことか

ら、無毒性量は雄で 1,000 ppm [40.4 mg/kg 体重/日 (36.8 mg/kg 体重/日)]、雌で本試験の最高用量 10,000 ppm [469 mg/kg 体重/日 (427 mg/kg 体重/日)] であると考えられた。発がん性は認められなかった。(参照 3、38)

(3) 2年間慢性毒性/発がん性併合試験(マウス)

ICR マウス [主群 (24 か月と殺群) : 一群雌雄各 41 匹、衛星群 (6 か月及び 12 か月と殺群 : 一群雌雄各 7~8 匹)] を用いた混餌投与 [原体 (純度 91%) : 0、100、1,000 及び 10,000 ppm : 平均検体摂取量は表 27 参照] による 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験が実施された。

表 27 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験(マウス)の平均検体摂取量

投与群		100 ppm	1,000 ppm	10,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	11.6 (10.6)	114 (104)	1,170 (1,070)
	雌	10.4 (9.5)	101 (91.9)	1,120 (1,020)

注) ()内はバリダマイシン A 換算値

検体投与により発生頻度の増加した腫瘍性病変は認められなかった。

本試験において、いずれの投与群においても毒性影響は認められなかったことから、無毒性量は雌雄とも本試験の最高用量 10,000 ppm [雄 : 1,170 mg/kg 体重/日 (1,070 mg/kg 体重/日)、雌 : 1,120 mg/kg 体重/日 (1,020 mg/kg 体重/日)] であると考えられた。発がん性は認められなかった。(参照 3、38)

12. 生殖発生毒性試験

(1) 2世代繁殖試験(ラット)①

Wistar Hannover ラット (一群雌雄各 24 匹) を用いた混餌投与 [原体 (純度 70.4%) : 0、2,000、6,000 及び 20,000 ppm : 平均検体摂取量は表 28 参照] による 2 世代繁殖試験が実施された。

表 28 2 世代繁殖試験（ラット）①の平均検体摂取量

投与群			2,000 ppm	6,000 ppm	20,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	P 世代	雄	123 (86.6)	371 (261)	1,250 (882)
		雌	156 (110)	456 (321)	1,490 (1,050)
	F ₁ 世代	雄	153 (108)	460 (324)	1,540 (1,080)
		雌	175 (123)	521 (367)	1,760 (1,240)

注) 0内はバリダマイシン A 換算値

各投与群で認められた毒性所見は表 29 に示されている。

本試験において、20,000 ppm 投与群の親動物及び児動物の雌雄で体重増加抑制等が認められたことから、無毒性量は親動物及び児動物の雌雄とも 6,000 ppm [P 雄：371 mg/kg 体重/日、P 雌：456 mg/kg 体重/日、F₁ 雄：460 mg/kg 体重/日、F₁ 雌：521 mg/kg 体重/日（P 雄：261 mg/kg 体重/日、P 雌：321 mg/kg 体重/日、F₁ 雄：324 mg/kg 体重/日、F₁ 雌：367 mg/kg 体重/日）] であると考えられた。繁殖能に対する影響は認められなかった。（参照 38、39）

表 29 2 世代繁殖試験（ラット）①で認められた毒性所見

投与群		親：P、児：F ₁		親：F ₁ 、児：F ₂	
		雄	雌	雄	雌
親動物	20,000 ppm	・体重増加抑制（投与 3 週以降） ・摂餌量減少（投与 1 週） ・盲腸膨満 ・腎比重量増加 ・腎尿細管好塩基性変化、尿細管拡張、結石、石灰化及び単核細胞浸潤	・体重増加抑制（投与 8 週以降） ・摂餌量減少（投与 1 週及び 2 週） ・盲腸膨満	・体重増加抑制 ・摂餌量減少 ・盲腸膨満 ・腎比重量増加 ・腎尿細管好塩基性変化、尿細管拡張及び石灰化	・体重増加抑制
	6,000 ppm 以下	毒性所見なし	毒性所見なし	毒性所見なし	毒性所見なし
児動物	20,000 ppm	・体重増加抑制	・体重増加抑制	・体重増加抑制	・体重増加抑制
	6,000 ppm 以下	毒性所見なし	毒性所見なし	毒性所見なし	毒性所見なし

(2) 2世代繁殖試験（ラット）②<参考資料³>

Wistar ラット（P 及び F₁ 世代：一群雄 30 匹、雌 60 匹、F₂ 世代：一群雄 15 匹、雌 30 匹）を用いた混餌投与〔原体（純度 91.3%）：0、500 及び 10,000 ppm：平均検体摂取量は表 30 参照〕による 2 世代繁殖試験が実施された。

また、P 及び F₁ 世代の 2 産目において、各群雌 5～7 匹を妊娠 20 日に帝王切開して胎児に及ぼす影響が検討された。

表 30 2 世代繁殖試験（ラット）②の平均検体摂取量

投与群			500 ppm	10,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	P 世代	雄	34.6	657 (600)
		雌	47.3	971 (886)
	F ₁ 世代	雄	33.8	698 (637)
		雌	47.6	912 (832)

注) ()内はバリダマイシン A 換算値

P 及び F₁ 世代の対照群を含む全群で死亡及び切迫と殺が認められたが、上部気道疾患によるものであり、検体投与の影響とは考えられなかった。

本試験において、親動物及び児動物とも検体投与に関連した毒性所見は認められなかった。（参照 3、38）

(3) 発生毒性試験（ラット）

Wistar Hannover ラット（一群雌 24 匹）の妊娠 6～19 日に強制経口投与〔原体（純度 70.4%）：0、100、300 及び 1,000 mg/kg 体重/日（バリダマイシン A 換算値：0、70.4、211 及び 704 mg/kg 体重/日）、溶媒：蒸留水〕して、発生毒性試験が実施された。

本試験において、いずれの投与群においても毒性影響は認められなかったことから、無毒性量は母動物及び胎児とも本試験の最高用量 1,000 mg/kg 体重/日（704 mg/kg 体重/日）と考えられた。催奇形性は認められなかった。（参照 38、40）

(4) 発生毒性試験（ウサギ）

NZW ウサギ（一群雌 16 匹）の妊娠 7～19 日に強制経口投与〔原体（純度 91.9%）：0、125、500 及び 2,000 mg/kg 体重/日（バリダマイシン A 換算値：0、115、460 及び 1,840 mg/kg 体重/日）、溶媒：脱イオン水〕して、発生毒性試験

³ 感染症が全群でみられていることから、参考資料とした。

が実施された。また、2,000 mg/kg 体重/日投与群で母動物に顕著な毒性影響が認められたことから、NZW ウサギ（一群雌 16 匹）の妊娠 7～19 日に強制経口投与〔原体（純度 91.3%）：0、1,000 及び 2,000 mg/kg 体重/日（バリダマイシン A 換算値：0、913 及び 1,830 mg/kg 体重/日）、溶媒：脱イオン水〕して、追加の試験が実施された。

各投与群で認められた毒性所見については、表 31 に示されている。

本試験において、母動物では 1,000 mg/kg 体重/日以上投与群で死亡及び流産が認められ、胎児では 2,000 mg/kg 体重/日投与群で骨格異常（肋骨奇形等）等が認められたことから、無毒性量は母動物で 500 mg/kg 体重/日（460 mg/kg 体重/日）、胎児で 1,000 mg/kg 体重/日（913 mg/kg 体重/日）と考えられた。（参照 3、38）

表 31 発生毒性試験(ウサギ)で認められた毒性所見

投与群	母動物	胎児
2,000 mg/kg 体重/日	・死亡(2 例)及び流産(8 例) ・体重減少§(妊娠 7～13 日以降) ・摂餌量減少§及び摂水量減少§(妊娠 7～12 日以降)	・低体重§§
2,000 mg/kg 体重/日 (追加試験)	・死亡(4 例)及び流産(2 例) ・体重減少§(妊娠 7～13 日以降) ・摂餌量減少§及び摂水量減少§(妊娠 7～12 日以降) ・平均着床後損失率増加§§	・低体重§§ ・骨格異常(肋骨奇形、肩甲骨奇形、四肢骨奇形) ・外表異常(水頭症、全身浮腫、短肢)
1,000 mg/kg 体重/日 (追加試験)	・死亡(2 例)及び流産(3 例)	1,000 mg/kg 体重/日以下 毒性所見なし
500 mg/kg 体重/日以下	毒性所見なし	

§：統計解析は実施していないが、検体投与の影響と判断した。

§§：統計学的有意差はないが、検体投与の影響と判断した。

1 3. 遺伝毒性試験

バリダマイシン原体の細菌を用いた DNA 修復試験及び復帰突然変異試験、マウスリンパ腫由来細胞を用いた遺伝子突然変異試験(マウスリンフォーマ TK 試験)、チャイニーズハムスター卵巣由来細胞（CHO）及び肺由来細胞（CHL）を用いた染色体異常試験並びにマウスを用いた宿主経路復帰突然変異試験及び小核試験が実施された。

結果は表 32 に示されている。

チャイニーズハムスター卵巣由来細胞（CHO）を用いた染色体異常試験において、代謝活性系存在下及び非存在下で陽性反応が示唆された。しかし、チャイニーズハムスター肺由来細胞（CHL）を用いた染色体異常試験及び *in vivo* の小核試験を含むその他の試験結果は全て陰性であったことから、バリダマイシンに生体において問題となる遺伝毒性はないものと考えられた。（参照 3、38）

表 32 遺伝毒性試験概要（原体）

試験		対象	処理濃度・投与量	結果
in vitro	DNA 修復試験 ^a	<i>Bacillus subtilis</i> (H17、M45 株)	20～2,000 µg/ディスク(-S9)	陰性
	復帰突然変異試験 ^a	<i>Salmonella typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、TA1537、TA1538 株) <i>Escherichia coli</i> (WP2 <i>hcr</i> 株)	10～1,000 µg/プレート(+S9) 10～3,000 µg/プレート(-S9)	陰性
	マウスリンフォーマ TK 試験 ^a	マウスリンパ腫由来細胞 (L5178Y)	150～5,000 µg/mL(+/-S9)	陰性
	染色体異常試験 ^a	チャイニーズハムスター 卵巣由来細胞(CHO)	100～5,000 µg/mL(+S9、2 時間処理、21～22 時間培養)	擬陽性
			100～5,000 µg/mL(-S9、2 時間処理、21～22 時間培養)	陽性
	染色体異常試験 ^b	チャイニーズハムスター 肺由来細胞(CHL)	1,250～5,000 µg/mL(+S9、6 時間処理、24 時間培養) 1,250～5,000 µg/mL(-S9、6 時間、24 時間及び 48 時間処理、24～48 時間培養)	陰性
宿主経路	復帰突然変異試験 ^a	ICR マウス(一群雄 6 匹) <i>S. typhimurium</i> (G46 株)	1,000、5,000 mg/kg 体重 (24 時間間隔 2 回強制経口投与)	陰性
in vivo	小核試験 ^c	ICR マウス(骨髓細胞) (一群雌雄各 5 匹)	500、1,000、2,000 mg/kg 体重 (単回強制経口投与、投与 24 時間及び 48 時間後に採取)	陰性

+/-S9：代謝活性化系存在下及び非存在下

a：純度 93.5%の検体を用いた。

b：純度 93.7%の検体を用いた。

c：純度 65.6%の検体を用いた。

動物、植物及び土壌由来の代謝物 A について、細菌を用いた復帰突然変異試験が実施された。

結果は表 33 に示されているとおり、陰性であった。（参照 3、35、38）

表 33 遺伝毒性試験概要（代謝物 A）

試験		対象	処理濃度・投与量	結果
in vitro	復帰突然変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	15.0～5,000 µg/プレート(+/-S9)	陰性

+/-S9：代謝活性化系存在下及び非存在下

14. その他の試験

(1) バリダマイシン原体投与による腸内細菌叢及び盲腸重量の変化（マウス）

ラット及びマウスを用いた亜急性毒性試験 [10. (1)～(4)] において、盲腸絶対重量増加が認められたことから、ddY マウス（一群雄 3 匹）にバリダマイシン（50 mg/mL の濃度で水道水に溶解）を、14～15 日間自由に摂水させて、腸内細菌叢及び盲腸重量への影響が検討された（平均検体摂取量：400 mg/日）。陽性対照として、ペニシリン G（0.3 mg/mL 水道水、平均検体摂取量：2.4 mg/日）が用いられた。

バリダマイシン投与群では糞便中の培養可能な細菌数に大きな変化は認められなかった。一方、ペニシリン G 投与群では投与 1 日後に糞便中の全菌数が減少し、*Bacteroides*、*Lactobacilli* が消失し、*Enterobacteriaceae*、*Streptococci* が増加した。

盲腸の湿重量（内容物を含む）は、いずれの検体を投与した場合にも投与 1 日後から急激に変化し、対照群に対してバリダマイシン投与群では 1.46 倍、陽性対照群では 2.08 倍となり、試験終了時まで持続した。しかし、盲腸乾燥重量（内容物を含む）はほとんど増加せず、湿重量の増加は盲腸内容物の水分の増加によるものと判断された。

盲腸の組織学的検査では、いずれの検体を投与した場合にも粘膜固有層に著しい変化はみられず、腸粘膜の脱落や出血などの障害性変化を示す所見は認められなかった。（参照 3、38）

(2) バリダマイシンとアミノサイクリトール系抗生物質との間の交叉耐性に関する試験

バリダマイシンと同系統である 4 種の抗生物質（カナマイシン硫酸塩、デキストロマイシン塩酸塩、ジヒドロストレプトマイシン硫酸塩及びジゴマイシン）との間の交叉耐性の有無を調べるためにバリダマイシン又は原体混在物①を 10 mg/mL 含有する斜面培地で 3 種の細菌（*Staphylococcus aureus*、*E. coli* 及び *Mycobacterium smegmatis* ATCC607）を 20 代継代培養し、20 代目のこれらの菌の 4 種抗生物質に対する感受性が寒天希釈法で検討された。

バリダマイシンを含有した培地で継代培養した 3 種の細菌の 4 種抗生物質の最小生育阻止濃度は、バリダマイシンを含有しない対照培地の最小生育阻止濃度と同じであり、カナマイシン硫酸塩、デキストロマイシン塩酸塩、ジヒドロストレプトマイシン硫酸塩及びジゴマイシンとの交叉耐性は認められなかった。原体混在物①においても交叉耐性は認められなかった。（参照 3、38）

Ⅲ. 食品健康影響評価

参照に挙げた資料を用いて、農薬「バリダマイシン」の食品健康影響評価を実施した。第 2 版の改訂に当たっては、厚生労働省から、作物残留試験（こんにゃく、チンゲンサイ等）の成績が新たに提出された。

^{14}C で標識したバリダマイシンのラットを用いた動物体内運命試験の結果、単回経口投与後の吸収率は、少なくとも 37.6%と算出された。投与放射能の排泄は速やかで、投与量及び性別にかかわらず、投与 72 時間後で 92%TAR 以上が尿、糞及び呼気中に排泄され、主に糞中に排泄された。残留放射能は主に肝臓、脊髄、胸腺、脳、副腎、下垂体及び骨髄で高かった。尿及び糞中の成分として未変化のバリダマイシンのほか代謝物 A が認められた。

^{14}C で標識したバリダマイシンの植物体内運命試験の結果、主要成分として未変化のバリダマイシンが認められたほか、代謝物 A、B 及び C が認められ、これらの代謝物のうち A が水稻（稲わら、もみ殻及び玄米）、レタス及びだいず（子実）で 10%TRR 以上検出された。

バリダマイシン及び代謝物 A を分析対象化合物とした作物残留試験の結果、バリダマイシンの最大残留値は、ほうれんそう（茎葉）の 11.8 mg/kg であった。また、代謝物 A の最大残留値は、ほうれんそう（茎葉）の 10.6 mg/kg であった。

各種毒性試験結果から、バリダマイシン投与による影響は、主に体重（増加抑制：ラット）、消化管（下痢及び軟便）に認められた。神経毒性、発がん性、繁殖能に対する影響及び生体において問題となる遺伝毒性は認められなかった。

ウサギを用いた発生毒性試験において、母動物で著しい毒性影響がみられる用量で胎児に骨格異常及び外表異常が認められた。ラットでは催奇形性は認められなかった。

植物体内運命試験の結果、10%TRR を超える代謝物として A が認められたが、代謝物 A はラットでも検出されることから、農産物中のばく露評価対象物質をバリダマイシン（親化合物のみ）と設定した。

バリダマイシンの各試験における無毒性量等は表 34 に、バリダマイシンの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響等は表 35 に、それぞれ示されている。

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験の雄の無毒性量である 40.4 mg/kg 体重/日（36.8 mg/kg 体重/日）であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.36 mg/kg 体重/日（バリダマイシン A 換算）を許容一日摂取量（ADI）と設定した。

また、バリダマイシンの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響に対する無毒性量及び最小毒性量のうち最小値は、イヌを用いた 90 日間亜急性毒性試験で得られた 500 mg/kg 体重/日（327 mg/kg 体重/日）であったことから、これを根拠として安全係数 100 で除した 3.2 mg/kg 体重（バリダマイシン A 換算）を急性参照用量（ARfD）と設定した。

ADI	0.36 mg/kg 体重/日 (バリダマイシン A 換算)
(ADI 設定根拠資料)	慢性毒性/発がん性併合試験
(動物種)	ラット
(期間)	2 年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	36.8 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100
ARfD	3.2 mg/kg 体重 (バリダマイシン A 換算)
(ARfD 設定根拠資料)	亜急性毒性試験
(動物種)	イヌ
(期間)	90 日間
(投与方法)	カプセル経口
(無毒性量)	327 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

表 34 各試験における無毒性量等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考 ¹⁾
ラット	3 か月間 亜急性 毒性試験	0、1,000、10,000、 100,000 ppm 雌雄：0、100、1,000、 10,000 (0、79.4、794、7,940)	雌雄： 1,000(794)	雌雄： 10,000(7,940)	雌雄：下痢、軟 便、盲腸絶対重 量増加等
	93 日間 亜急性 毒性試験	0、1,000、10,000、 100,000 ppm 雌雄：0、100、1,000、 10,000 (0、79.4、794、7,940)	雄：100(79.4) 雌：1,000(794)	雄：1,000(794) 雌： 10,000(7,940)	雌雄：盲腸絶対 重量増加等
	28 日間 亜急性 神経毒性 試験	0、1,000、3,000、 10,000 ppm 雄：0、87.3、260、 886 (0、58.2、177、591) 雌：0、93.1、277、 897 (0、62.1、185、599)	雄：886(591) 雌：897(599)	雄：－ 雌：－	雌雄：毒性所見 なし (亜急性神経毒 性は認められな い)
	2 年間 慢性毒性/ 発がん性 併合試験	0、100、1,000、10,000 ppm 雄：0、4.05、40.4、 414 (0、3.69、36.8、377) 雌：0、4.59、47.2、 469 (0、4.12、43.0、427)	雄：40.4(36.8) 雌：469(427)	雄：414(377) 雌：－	雄：体重増加抑 制 雌：毒性所見な し (発がん性は認 められない)
	2 世代 繁殖試験 ①	0、2,000、6,000、 20,000 ppm P 雄：0、123、371、 1,250 (0、86.6、261、882) P 雌：0、156、456、 1,490 (0、110、321、1,050) F ₁ 雄：0、153、460、 1,540 (0、108、324、1,080) F ₁ 雌：0、175、521、 1,760 (0、123、367、1,240)	親動物及び児 動物 P 雄：371(261) P 雌：456(321) F ₁ 雄： 460(324) F ₁ 雌： 521(367)	親動物及び児 動物 P 雄： 1,250(882) P 雌： 1,490(1,050) F ₁ 雄： 1,540(1,080) F ₁ 雌： 1,760(1,240)	親動物及び児動 物 雌雄：体重増加 抑制等 (繁殖能に対す る影響は認めら れない)

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考 ¹⁾
	発生毒性試験	0、100、300、1,000 (0、70.4、211、704)	母動物及び胎児：1,000(704)	母動物及び胎児：－	母動物及び胎児：毒性所見なし (催奇形性は認められない)
マウス	3 か月間 亜急性 毒性試験	0、1,000、10,000、 100,000 ppm 雌雄：0、143、1,430、 14,300 (0、114、1,140、 11,400)	雌雄：1,430(1,140)	雌雄：14,300 (11,400)	雌雄：盲腸絶対重量増加
	89 日間 亜急性 毒性試験	0、1,000、10,000、 100,000 ppm 雌雄：0、143、1,430、 14,300 (0、114、1,140、 11,400)	雌雄：1,430(1,140)	雌雄：14,300 (11,400)	雌雄：下痢、軟便等
	2 年間 慢性毒性/ 発がん性 併合試験	0、100、1,000、10,000 ppm 雄：0、11.6、114、 1,170 (0、10.6、104、1,070) 雌：0、10.4、101、 1,120 (0、9.5、91.9、1,020)	雄：1,170(1,070) 雌：1,120(1,020)	雄：－ 雌：－	雌雄：毒性所見なし (発がん性は認められない)
ウサギ	発生毒性試験	初回試験：0、125、 500、2,000 (0、115、460、1,840) 追加試験：0、1,000、 2,000 (0、913、1,830)	母動物：500(460) 胎児：1,000(913)	母動物：1,000(913) 胎児：2,000(1,830)	母動物：死亡及び流産 胎児：骨格異常 (肋骨奇形等)等
イヌ	90 日間 亜急性 毒性試験	0、250、500、1,000 (0、163、327、653)	雌雄：250(163)	雌雄：500(327)	雌雄：軟便
	1 年間 慢性毒性 試験	0、50、150、500 (0、32.7、98.0、327)	雌雄：150(98.0)	雌雄：500(327)	雌雄：軟便
ADI			NOAEL：36.8 SF：100 ADI：0.36（バリダマイシン A 換算）		
ADI 設定根拠資料			ラット 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験		

注) 0内はバリダマイシン A 換算値

ADI：許容一日摂取量 SF：安全係数 NOAEL：無毒性量

－：最小毒性量は設定できなかった。

1)：備考欄には最小毒性量で認められた主な毒性所見等を記した。

表 35 単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重又は mg/kg 体重/日)	無毒性量及び急性参照用量設定に 関連するエンドポイント ¹⁾ (mg/kg 体重又は mg/kg 体重/日)
ラット	急性毒性 試験①	10,000、15,000、 20,000	雌雄：－ 雌雄：下痢
	急性毒性 試験③	雌：2,000(1,270)	雌：－ 雌：粘液便
	93 日間亜急性 毒性試験	0、100、1,000、 10,000 (0、79.4、794、 7,940)	雌雄：1,000(794) 雌雄：下痢及び軟便
マウス	一般薬理試験 (体温)	0、1,500、5,000、 15,000	雄：1,500 雄：体温低下
	急性毒性 試験①	10,000、15,000、 20,000	雌雄：－ 雌雄：下痢
	89 日間亜急性 毒性試験	0、143、1,430、 14,300 (0、114、1,140、 11,400)	雌雄：1,430(1,140) 雌雄：下痢及び軟便
イヌ	90 日間亜急性 毒性試験	0、250、500、1,000 (0、163、327、653)	雌雄：500(327) 雌雄：軟便
ARfD			NOAEL：327 SF：100 ARfD：3.2 (バリダマイシン A 換算)

注) 0内はバリダマイシン A 換算値

ARfD：急性参照用量 SF：安全係数 NOAEL：無毒性量

－：無毒性量は設定できず

¹⁾：最小毒性量で認められた主な毒性所見を記した。

<別紙 1 : 代謝物/分解物/原体混在物略称>

記号	名称 (略称)	化学名
A	バリドキシルアミン A	1,5,6-trideoxy-5-(hydroxymethyl)-1-[(1 <i>S</i> , 4 <i>R</i> , 5 <i>S</i> , 6 <i>S</i>)-4,5,6-trihydroxy-3-hydroxymethylcyclohex-2-enylamino]-D-chiro-inositol
B	バリダミン	(1 <i>R</i>)-4β-amino-6α-(hydroxymethyl) cyclohexane-1β, 2α, 3β-triol
C	—	(1 <i>S</i>)-6α-amino-4-(hydroxymethyl)-4-cyclohexene-1α, 2β, 3α-triol
D	—	β-D-glucose
原体混在物 ①	—	—

<別紙 2 : 検査値等略称>

略称	名称
ai	有効成分量 (active ingredient)
AUC	薬物濃度曲線下面積
C _{max}	最高濃度
LC ₅₀	半数致死濃度
LD ₅₀	半数致死量
PHI	最終使用から収穫までの日数
T _{1/2}	消失半減期
TAR	総投与 (処理) 放射能
T _{max}	最高濃度到達時間
TRR	総残留放射能

<別紙 3：作物残留試験成績（国内）>

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					バリダマイシン				代謝物 A	
					公的分析機関		私的分析機関		公的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
水稲 (露地) (玄米) 昭和 45 年度	1	(3%液剤)	1	71	<0.05	<0.05				
			2	55	<0.05	<0.05				
			3	34	<0.05	<0.05				
	1		1	67	<0.05	<0.05				
			2	55	<0.05	<0.05				
			3	45	<0.05	<0.05				
水稲 (露地) (玄米) 昭和 46 年度	1	120 ^D	1	68	<0.06	<0.06				
			2	58	<0.06	<0.06				
			3	48	<0.06	<0.06				
	1		1	72	<0.06	<0.06				
			2	62	<0.06	<0.06				
			3	48	<0.06	<0.06				
水稲 (露地) (稲わら) 昭和 46 年度	1	120 ^D	1	68	<0.1	<0.1				
			2	58	<0.1	<0.1				
			3	48	<0.1	<0.1				
	1		1	72	<0.1	<0.1				
			2	62	<0.1	<0.1				
			3	48	<0.1	<0.1				
水稲 (露地) (玄米) 昭和 47 年度	1	120 ^{MG}	1	7	<0.06	<0.06	<0.05	<0.05		
			1	20	<0.06	<0.06	<0.05	<0.05		
			2	1	<0.06	<0.06	<0.05	<0.05		
	1		2	7	<0.06	<0.06	<0.05	<0.05		
			4	7	<0.06	<0.06	<0.05	<0.05		
水稲 (露地) (稲わら) 昭和 47 年度	1	120 ^{MG}	1	7	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08		
			1	20	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08		
			2	1	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08		
	1		2	7	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08		
			4	7	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08		
水稲 (露地) (玄米) 昭和 47 年度	1	60.0 ^L	3	0 ^a	<0.007	<0.007	<0.009	<0.009		
			6 ^a	0 ^a	<0.007	<0.007	<0.009	<0.009		
	1	90.0 ^L	3	1 ^a	<0.007	<0.007	<0.009	<0.009		
			6 ^a	1 ^a	<0.007	<0.007	<0.009	<0.009		
水稲 (露地) (稲わら) 昭和 47 年度	1	60.0 ^L	3	0 ^a	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02		
			6 ^a	0 ^a	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02		
	1	90.0 ^L	3	1 ^a	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02		
			6 ^a	1 ^a	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					バリダマイシン				代謝物 A	
					公的分析機関		私的分析機関		公的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
水稻 (露地) (玄米) 昭和 47 年度	1	75.0 ^L	2	32	<0.06	<0.06	<0.05	<0.05		
	1		1	53	<0.06	<0.06	<0.05	<0.05		
水稻 (露地) (稲わら) 昭和 47 年度	1	75.0 ^L	2	32	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08		
	1		1	53	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08		
水稻 (露地) (玄米) 昭和 47 年度	1	135 ^D	2	44	<0.05	<0.05	<0.06	<0.06		
			3	7 ^a	<0.05	<0.05	<0.06	<0.06		
	1	120 ^D	2	62	<0.05	<0.05	<0.06	<0.06		
			3	15	<0.05	<0.05	<0.06	<0.06		
水稻 (露地) (稲わら) 昭和 47 年度	1	135 ^D	2	44	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08		
			3	7 ^a	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08		
	1	120 ^D	2	62	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08		
			3	15	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08		
水稻 (露地) (玄米) 昭和 48 年度	1	73.5 ^{SL}	2	29	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	28.0～ 67.5 ^{SL}	2	34	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
水稻 (露地) (稲わら) 昭和 48 年度	1	73.5 ^{SL}	2	29	<0.08	<0.08	<0.09	<0.09		
	1	28.0～ 67.5 ^{SL}	2	34	<0.08	<0.08	<0.09	<0.09		
水稻 (露地) (玄米) 昭和 48 年度	1	50.0 ^{SL}	2	52	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	52	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	75.0 ^{SL}	2	35	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	35	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
水稻 (露地) (稲わら) 昭和 48 年度	1	50.0 ^{SL}	2	52	<0.08	<0.08	<0.09	<0.09		
			3	52	<0.08	<0.08	<0.09	<0.09		
	1	75.0 ^{SL}	2	35	<0.08	<0.08	<0.09	<0.09		
			3	35	<0.08	<0.08	<0.09	<0.09		
水稻 (露地) (玄米) 昭和 49 年度	1	36.0 ^L	2	41	<0.03	<0.03	<0.05	<0.05		
	1	30.0 ^L	1	57	<0.03	<0.03	<0.05	<0.05		
水稻 (露地) (稲わら) 昭和 49 年度	1	36.0 ^L	2	41	<0.1	<0.1	<0.08	<0.08		
	1	30.0 ^L	1	57	<0.1	<0.1	<0.08	<0.08		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					バリダマイシン				代謝物 A	
					公的分析機関		私的分析機関		公的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
水稲 (露地) (玄米) 昭和 49 年度	1	60.0 ^L + 30.0 ^L	2	51	<0.03	<0.03	<0.05	<0.05		
水稲 (露地) (稲わら) 昭和 49 年度	1	60.0 ^L + 30.0 ^L	2	51	<0.1	<0.1	<0.08	<0.08		
水稲 (露地) (玄米) 昭和 49 年度	1	60.0 ^L	1	56	<0.03	<0.03	<0.05	<0.05		
水稲 (露地) (稲わら) 昭和 49 年度	1	60.0 ^L	1	56	<0.1	<0.1	<0.08	<0.08		
水稲 (露地) (玄米) 昭和 62 年度	1	120 ^D	6 ^a	14	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
			6 ^a	21	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
	1		6 ^a	14	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
			6 ^a	21	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
水稲 (露地) (稲わら) 昭和 62 年度	1	120 ^D	6 ^a	14	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
			6 ^a	21	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
	1		6 ^a	14	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
			6 ^a	21	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
水稲 (露地) (玄米) 平成 2 年度	1	66.7 ^L	3	16			<0.05	<0.05		
	1		3	14			<0.05	<0.05		
水稲 (露地) (玄米) 平成 5 年度	1	41.7 ^L	3	14			<0.05	<0.05		
	1		3	14			<0.05	<0.05		
水稲 (露地) (玄米) 平成 17 年度	1	41.7 ^L	1	14			<0.05	<0.05		
	1		1	14			<0.05	<0.05		
水稲 (露地) (稲わら) 平成 17 年度	1	41.7 ^L	1	14			<0.05	<0.05		
	1		1	14			<0.05	<0.05		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					バリダマイシン				代謝物 A	
					公的分析機関		私的分析機関		公的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
水稻 (露地) (玄米) 平成 17 年度	1	90.0 ^L	1	14			<0.05	<0.05		
	1		1	14			<0.05	<0.05		
水稻 (露地) (稲わら) 平成 17 年度	1	90.0 ^L	1	14			<0.05	<0.05		
	1		1	14			<0.05	<0.05		
水稻 (露地) (玄米) 平成 17 年度	1	75.0 ^L	1	14			<0.05	<0.05		
	1		1	14			<0.05	<0.05		
水稻 (露地) (稲わら) 平成 17 年度	1	75.0 ^L	1	14			<0.05	<0.05		
	1		1	14			<0.05	<0.05		
水稻 (露地) (玄米) 平成 17 年度	1	90.0 ^L	1	14			<0.05	<0.05		
	1		1	14			<0.05	<0.05		
水稻 (露地) (稲わら) 平成 17 年度	1	90.0 ^L	1	14			<0.05	<0.05		
	1		1	14			<0.05	<0.05		
未成熟とうも ろこし (露地) (種子) 平成 21 年度	1	100 ^L	3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1		3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
だいず (露地) (乾燥子実 (豆)) 平成 11 年度	1	250 ^L	3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1		3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
ばれいしょ (露地) (塊茎) 昭和 49 年度 昭和 50 年度	1	粉剤(0.3%) 1%種いも粉 衣＋ 液剤(3%) 500 倍 3 L/m ² 灌注×5	6	7	<0.05	<0.05	<0.02	<0.02		
	1		6	8	<0.05	<0.05	<0.03	<0.03		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					バリダマイシン				代謝物 A	
					公的分析機関		私的分析機関		公的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
ばれいしょ (露地) (塊茎) 昭和 49 年度	1	粉剤(0.3%) 0.3%種いも 粉衣	1	120	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1		1	148	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
ばれいしょ (露地) (塊茎) 昭和 53 年度	1	液剤(3%) 10 倍 種いも瞬間 浸漬	1	141	<0.05	<0.05	<0.04	<0.04		
	1		1	138	<0.05	<0.05	<0.04	<0.04		
ばれいしょ (露地) (塊茎) 平成 13 年度	1	液剤(5%) 200 倍 種いも浸漬 + 液剤(5%) 200 倍 種いも散布 + 粉剤(0.3%) 0.3%種いも 粉衣 + 300L×6	9 ^a	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			9 ^a	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			9 ^a	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	液剤(5%) 200 倍 種いも浸漬 + 液剤(5%) 200 倍 種いも散布 + 粉剤(0.3%) 0.3%種いも 粉衣 + 600L×6	9 ^a	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			9 ^a	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			9 ^a	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
ばれいしょ (露地) (塊茎) 平成 25 年度	1	液剤(5%) 10 倍 0.3%種いも 散布 + 液剤(5%) 500 倍 156~194 ^L 散布×6	7	1 ^a	<0.05	<0.05				
				3	<0.05	<0.05				
				7	<0.05	<0.05				
				14	<0.05	<0.05				

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					バリダマイシン				代謝物 A	
					公的分析機関		私的分析機関		公的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
ばれいしょ (露地) (塊茎) 平成 25 年度	1	液剤(5%) 10 倍 0.3%種いも 散布 ＋ 液剤(5%) 500 倍 190 ^L 散布	7	1 ^a	<0.05	<0.05				
				3	<0.05	<0.05				
				7	<0.05	<0.05				
				14	<0.05	<0.05				
こんにゃく (露地) (球茎) 平成 26 年	1	3,000 ^L	3	1	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05
				3	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05
				7	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05
	1		3	1	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05
				3	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05
				7	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05
	1		3	1	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05
				3	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05
				7	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05
てんさい (露地) (根部) 昭和 57 年度	1	7.2 ^L 灌注 ×2 ＋ 60 ^L ×3	5 ^a	30	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
		液剤(3%) 250 倍 1 L/冊灌注 ×2 ＋ 60 ^L ×3	5 ^a	30	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
てんさい (露地) (葉部) 昭和 57 年度	1	7.2 ^L 灌注 ×2 ＋ 60 ^L ×3	5 ^a	30	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
		液剤(3%) 250 倍 1 L/冊灌注 ×2 ＋ 60 ^L ×3	5 ^a	30	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					バリダマイシン				代謝物 A	
					公的分析機関		私的分析機関		公的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
だいこん (露地) (根部) 昭和 55 年度	1	液剤(3%) 500 倍 200 mL/株 灌注	4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	1,800L 灌注	4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
だいこん (露地) (葉部) 昭和 55 年度	1	液剤(3%) 500 倍 200 mL/株 灌注	4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	1,800L 灌注	4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
だいこん (露地) (根部) 平成 6 年度	1	600 ^D 株元処理	4	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1		4	7	<0.05	<0.05	0.05	0.05		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
だいこん (露地) (葉部) 平成 6 年度	1	600 ^D 株元処理	4	7	<0.05	<0.05	0.23	0.22		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1		4	7	0.54	0.52	0.43	0.32		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
だいこん (露地) (根部) 平成 16 年度	1	58～330 ^L	4	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	150 ^L	4	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	20	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
だいこん (露地) (葉部) 平成 16 年度	1	58～330 ^L	4	7	0.05	0.05	0.05	0.05		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	150 ^L	4	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	20	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					バリダマイシン				代謝物 A	
					公的分析機関		私的分析機関		公的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
はくさい (露地) (茎葉) 平成 9 年度	1	200 ^L	3	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	300 ^L	3	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
キャベツ (露地) (茎葉) 平成 3 年度 平成 4 年度	1	25~125 ^L	5	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			5	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	125 ^L	5	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			5	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	167~194 ^L 153~181 ^L	3	1	1.14	1.12			0.48	0.48
				3	0.69	0.68			0.43	0.42
				7	0.38	0.38			0.20	0.20
				14	0.08	0.08			0.08	0.08
チンゲンサイ (施設) (茎葉) 平成 24 年	1	188 ^L	3	1	4.44	4.41			1.93	1.93
				3	4.11	4.10			1.70	1.70
				7	2.94	2.90			1.29	1.29
				14	1.33	1.32			0.70	0.69
	1	169 ^L	3	1	4.60	4.54			3.10	3.07
				3	3.25	3.24			2.89	2.78
				7	1.14	1.14			1.64	1.64
				14	0.57	0.57			0.86	0.84
ブロッコリー (露地) (花蕾) 平成 22 年度	1	176 ^L	3	1	0.86	0.86	0.62	0.59		
			3	3	0.60	0.60	0.46	0.44		
			3	7	0.44	0.43	0.31	0.30		
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	123 ^L	3	1	0.11	0.11	0.06	0.06		
			3	3	0.09	0.08	<0.05	<0.05		
			3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					バリダマイシン				代謝物 A	
					公的分析機関		私的分析機関		公的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
レタス (露地) (茎葉) 昭和 51 年度	1	120 ^L	2	1	0.06	0.06	<0.05	<0.05		
			2	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1		2	1	0.06	0.06	<0.05	<0.05		
			2	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
リーフレタス (露地) (茎葉) 平成 15 年度	1	125 ^L	3	3	0.09	0.09	<0.05	<0.05		
			3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1		3	3	0.06	0.06	0.05	0.05		
			3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
サラダ菜 (露地) (茎葉) 平成 15 年度	1	188 ^L	3	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	125 ^L	3	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
ふき (施設) (茎葉) 昭和 49 年度	1	液剤(5%) 500 倍 30 分間種茎 浸漬 ＋ 3 L/m ² 灌注×5~6	7 ^a	8	<0.05	<0.05	<0.2	<0.2		
	1		6 ^a	7	<0.05	<0.05	<0.2	<0.2		
たまねぎ (露地) (鱗茎) 平成 10 年度	1	150 ^L	5	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			5	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			5	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1		5	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			5	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			5	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					バリダマイシン				代謝物 A	
					公的分析機関		私的分析機関		公的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
ねぎ (露地) (茎葉) 平成 16 年度	1	液剤(5%) 400 倍 6 L/m ² ＋ 167 ^L × 4	5 ^a	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			5 ^a	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			5 ^a	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	液剤(5%) 400 倍 4 L/m ² ＋ 200 ^L × 4	5 ^a	7	0.09	0.09	0.09	0.09		
			5 ^a	14	0.05	0.05	0.05	0.05		
			5 ^a	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
ねぎ (露地) (茎葉) 平成 19 年度	1	液剤(5%) 400 倍 6 L/m ² ＋ 200 ^L	1	100	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			2	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			2	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			2	28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1		1	56	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			2	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			2	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			2	28	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
ねぎ (露地) (茎葉) 平成 23 年度	1	200 ^L	2	1			<0.05	<0.05		
			2	3			<0.05	<0.05		
			2	7			<0.05	<0.05		
			2	14			<0.05	<0.05		
			2	21			<0.05	<0.05		
ねぎ (施設) (茎葉) 平成 23 年度	1	180～182 ^L	2	1			0.92	0.90		
			2	3			0.37	0.36		
			2	7			0.19	0.18		
			2	14			0.14	0.14		
			2	21			0.05	0.05		
にんにく (露地) (鱗茎) 平成 9 年度	1	125 ^L	5	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			5	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			5	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1		5	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			5	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			5	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
にら (施設) (葉部) 平成 8 年度 平成 9 年度	1	188 ^L	3	19	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	138 ^L	3	42	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					バリダマイシン				代謝物 A	
					公的分析機関		私的分析機関		公的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
みつば (施設) (茎葉) 平成 16 年度	1	育苗期 262 ^L + 定植後 125 ^L ×3	4	7	0.20	0.20				
			4	14	<0.05	<0.05				
			4	21	<0.05	<0.05				
	1	育苗期 225 ^L + 定植後 125 ^L ×3	4	7	0.07	0.07				
			4	14	<0.05	<0.05				
			4	21	<0.05	<0.05				
トマト (施設) (果実) 昭和 61 年度	1	液剤(3%) 500 倍 6 L/m ² 灌注	3 ^a	80	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
	1		3 ^a	103	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
きゅうり (施設) (果実) 昭和 61 年度	1	液剤(3%) 500 倍 6 L/m ² 灌注	3 ^a	43	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
	1		3 ^a	44	<0.04	<0.04	<0.05	<0.05		
ほうれんそう (施設) (茎葉) 平成 30 年	1	196~211 ^L	4	1	2.16	2.16			5.27	5.23
				3	0.66	0.65			4.56	4.56
				7	0.72	0.72			3.93	3.93
				14	<0.05	<0.05			0.62	0.62
				21	<0.05	<0.05			0.30	0.30
	1	199~213 ^L	4	1	5.84	5.74			10.2	10.1
				3	5.45	5.32			10.6	10.4
				7	3.19	3.16			10.5	10.4
				14	0.10	0.10			3.84	3.82
				21	<0.05	<0.05			2.11	2.10

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					バリダマイシン				代謝物 A	
					公的分析機関		私的分析機関		公的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
ほうれんそう (施設) (茎葉) 令和元年	1	199～210 ^L	4	1	8.57	8.38			6.56	6.32
				3	6.44	6.27			6.48	6.32
				7	4.61	4.56			5.83	5.76
				14	2.76	2.72			3.54	3.50
				21	1.89	1.88			3.73	3.72
	1	200 ^L	4	1	11.8	11.6			4.60	4.54
				3	9.12	8.84			4.97	4.82
				7	6.09	5.84			5.02	4.82
				14	2.89	2.84			2.10	2.06
				21	1.87	1.82			1.76	1.72
	1	201～206 ^L	4	1	4.43	4.32			5.09	4.96
				3	4.38	4.28			5.37	5.24
				7	1.38	1.36			5.26	5.17
				14	0.16	0.16			2.27	2.21
				21	0.14	0.14			1.97	1.96
	1	192～205 ^L	4	1	5.01	4.86			5.00	4.84
				3	3.46	3.40			5.26	5.18
				7	2.66	2.61			4.79	4.68
				14	0.30	0.29			3.62	3.50
				21	0.32	0.31			3.07	2.94
しょうが (露地) (根茎) 昭和 48 年度	1	150 ^L	2	1 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			2	5 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			2	10 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	1 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	5 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	10 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			6 ^a	1 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			6 ^a	5 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			6 ^a	10 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	90 ^L	2	1 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			2	6 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			2	11 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	1 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	6 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	11 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			6 ^a	1 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			6 ^a	6 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			6 ^a	11 ^a	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					バリダマイシン				代謝物 A	
					公的分析機関		私的分析機関		公的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
えだまめ (露地) (さや) 平成 13 年度	1	200 ^L	3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	300 ^L	3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			3	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
みかん (施設) (果肉) 平成 11 年度	1	500 ^L	4	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1		4	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
みかん (施設) (果皮) 平成 11 年度	1	500 ^L	4	7	0.97	0.94	0.97	0.96		
			4	14	0.61	0.61	0.58	0.58		
			4	21	0.17	0.16	0.17	0.17		
	1		4	7	0.38	0.36	0.43	0.42		
			4	14	0.07	0.07	0.09	0.09		
			4	21	0.05	0.05	0.07	0.07		
みかん (施設) (果実全体 ^b) 平成 11 年度	1	500 ^L	4	7		0.23		0.21		
				14		0.15		0.16		
				21		0.07		0.07		
	1		4	7		0.10		0.10		
				14		0.05		0.05		
				21		0.05		0.05		
なつみかん (露地) (果肉) 平成 11 年度	1	500 ^L	4	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
なつみかん (露地) (果皮) 平成 11 年度	1	500 ^L	4	7	0.56	0.55	0.58	0.54		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
なつみかん (露地) (果実全体 ^b) 平成 11 年度	1	500 ^L	4	7		0.19		0.20		
				14		<0.05		<0.05		
				21		<0.05		<0.05		
なつみかん (露地) (果実全体) 平成 11 年度	1	500 ^L	4	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					バリダマイシン				代謝物 A	
					公的分析機関		私的分析機関		公的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
かぼす (露地) (果実) 平成 11 年度	1	500 ^L	4	6 ^a			<0.05	<0.05		
			4	14			<0.05	<0.05		
			4	21			<0.05	<0.05		
すだち (露地) (果実) 平成 11 年度	1	500 ^L	5 ^a	7			<0.05	<0.05		
			5 ^a	14			<0.05	<0.05		
			5 ^a	20			<0.05	<0.05		
もも (露地) (果肉) 平成 11 年度	1	400 ^L	4	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1		4	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
もも (露地) (果皮) 平成 11 年度	1	400 ^L	4	7	1.08	1.08	0.68	0.66		
			4	14	1.40	1.38	0.48	0.46		
			4	21	0.33	0.32	0.14	0.14		
	1		4	7	0.50	0.49	0.29	0.29		
			4	14	0.36	0.36	0.23	0.22		
			4	21	0.09	0.08	<0.05	<0.05		
もも (露地) (果実全体 ^b) 平成 11 年度	1	400 ^L	4	7		0.20		0.14		
				14		0.17		0.08		
				21		0.07		0.06		
	1		4	7		0.10		0.07		
				14		0.08		0.06		
				21		0.05		<0.05		
すもも (露地) (果実) 平成 15 年度	1	300～400 ^L	4	3	0.05	0.05	<0.05	<0.05		
			4	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
	1	400 ^L	4	3	0.09	0.08	<0.05	<0.05		
			4	7	0.07	0.07	<0.05	<0.05		
			4	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
			4	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05		
うめ (露地) (果実) 平成 17 年度	1	400 ^L	4	7	0.20	0.20	0.34	0.31		
			4	14	0.28	0.28	0.35	0.34		
			4	21	0.21	0.20	0.20	0.18		
	1	300 ^L	4	7	0.05	0.05	0.10	0.10		
			4	14	<0.05	<0.05	0.05	0.05		
			4	21	<0.05	<0.05	0.05	0.05		

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)						
					バリダマイシン				代謝物 A		
					公的分析機関		私的分析機関		公的分析機関		
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
うめ (露地) (果実) 平成 20 年度	1	300 ^L	1	7	0.17	0.16	0.25	0.24			
			1	14	0.13	0.13	0.19	0.18			
			1	60	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			2	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			2	30	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
	1	430 ^L	1	7	0.28	0.28	0.37	0.37			
			1	14	0.20	0.20	0.29	0.28			
			1	60	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			2	21	0.38	0.37	0.44	0.42			
			2	30	0.14	0.14	0.12	0.12			
	1	400 ^L	1	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			1	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			1	60	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			2	21	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			2	30	0.09	0.09	<0.05	<0.05			
	1	320～400 ^L	1	7	0.13	0.13	0.12	0.12			
			1	14	0.08	0.08	0.06	0.06			
			1	60	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			2	21	0.11	0.11	0.07	0.06			
			2	30	0.06	0.06	<0.05	<0.05			
いちご (露地) (果実) 昭和 48 年度	1	90 ^L	2	10	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			2	19	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			4	10	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			4	19	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
	1		2	10	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			2	20	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			4	10	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
			4	20	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05			
いちご (施設) (果実) 平成 24 年	1	89 ^L	3	1	0.60	0.60			0.17	0.17	
				3	0.47	0.47			0.17	0.17	
				7	0.39	0.39			0.10	0.10	
				14	0.19	0.18			0.09	0.08	
	1		90 ^L	3	1	0.41	0.41			0.18	0.18
					3	0.36	0.36			0.16	0.16
					7	0.23	0.22			0.16	0.16
					14	0.14	0.14			0.15	0.15
いちご (施設) (果実) 平成 27 年	1	92.5 ^L	3	1	0.22	0.22			0.09	0.08	
				3	0.15	0.15			0.07	0.06	
				7	0.11	0.11			0.07	0.06	
				14	0.05	0.05			<0.05	<0.05	

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)					
					バリダマイシン				代謝物 A	
					公的分析機関		私的分析機関		公的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
茶 (露地) (荒茶) 平成 28 年	1	311 ^L	2	1 ^a	60.2	58.7			4.64	4.56
				3 ^a	5.03	4.80			2.86	2.79
				7	3.12	3.00			4.45	4.29
				14	<0.05	<0.05			1.48	1.46
				21	<0.05	<0.05			0.16	0.15
	1	387 ^L	2	1 ^a	0.28	0.28			2.54	2.53
				3 ^a	0.07	0.07			1.68	1.67
				7	0.09	0.09			2.27	2.16
				14	<0.05	<0.05			0.59	0.58
				21	<0.05	<0.05			0.19	0.19
	1	333 ^L	2	1 ^a	2.09	2.05			1.52	1.49
				3 ^a	0.23	0.23			1.13	1.12
				7	<0.05	<0.05			0.31	0.30
				14	<0.05	<0.05			0.39	0.38
				21	<0.05	<0.05			0.17	0.17
茶 (露地) (荒茶) 平成 29 年	1	313 ^L	2	1 ^a	0.99	0.98			1.87	1.86
				3 ^a	0.30	0.30			2.55	2.53
				7	0.07	0.07			1.97	1.96
				14	<0.05	<0.05			0.66	0.65
				21	<0.05	<0.05			0.14	0.14
	1	333 ^L	2	1 ^a	47.5	47.4			9.79	9.63
				3 ^a	21.8	21.7			7.85	7.81
				7	0.08	0.08			1.28	1.28
				14	<0.05	<0.05			1.26	1.22
				21	<0.05	<0.05			1.07	1.06
茶 (露地) (荒茶) 平成 29 年	1	300 ^L	2	1 ^a	66.0	65.4			7.97	7.84
				3 ^a	39.6	39.6			8.23	8.10
				7	0.09	0.09			2.11	2.08
				14	<0.05	<0.05			2.09	2.06
				21	<0.05	<0.05			0.94	0.93
	1	300 ^L	2	1 ^a	66.0	65.6			9.82	9.73
				3 ^a	1.03	1.00			2.01	1.97
				7	0.53	0.52			1.63	1.63
				14	<0.05	<0.05			1.55	1.55
				21	0.05	0.05			2.64	2.62
茶 (露地) (荒茶) 平成 30 年	1	300 ^L	2	1 ^a	33.4	33.0			7.06	7.01
				3 ^a	1.57	1.54			2.75	2.74
				7	0.33	0.33			2.39	2.37
				14	<0.05	<0.05			0.55	0.55
				21	<0.05	<0.05			1.07	1.07

D : 粉剤、MG : 微粒剤、L : 液剤、SL : ズル剤

・全てのデータが定量限界未満の場合は定量限界値の平均に<を付して記載した。

- ・／：分析せず
 - ・農薬の使用回数又は使用時期（**PHI**）が登録又は申請された使用方法から逸脱している場合は剤型、使用回数又は **PHI** に ^aを付した。
- ^b：計算値

<別紙4：推定摂取量>

作物名等	残留値 (mg/kg)	国民平均 (体重：55.1 kg)		小児(1～6歳) (体重：16.5kg)		妊婦 (体重：58.5 kg)		高齢者(65歳以上) (体重：56.1 kg)	
		ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)
だいこん類(ラディッシュを含む。)(根)	0.05	33.0	1.65	11.4	0.57	20.6	1.03	45.7	2.29
だいこん類(ラディッシュを含む。)(葉)	0.52	1.7	0.88	0.6	0.31	3.1	1.61	2.8	1.46
チンゲンサイ	4.54	1.8	8.17	0.7	3.18	1.8	8.17	1.9	8.63
ブロッコリー	0.86	5.2	4.47	3.3	2.84	5.5	4.73	5.7	4.90
レタス(サラダ菜及びちしやを含む。)	0.09	9.6	0.86	4.4	0.40	11.4	1.03	9.2	0.83
ねぎ(リーキを含む。)	0.90	9.4	8.46	3.7	3.33	6.8	6.12	10.7	9.63
みつば	0.20	0.4	0.08	0.1	0.02	0.1	0.02	0.5	0.10
ほうれんそう	11.6	12.8	148	5.9	68.4	14.2	165	17.4	202
なつみかんの果皮	0.55	0.1	0.06	0.1	0.06	0.1	0.06	0.1	0.06
なつみかんの果実全体	0.20	1.3	0.26	0.7	0.14	4.8	0.96	2.1	0.42
すもも(プルーンを含む。)	0.08	1.1	0.09	0.7	0.06	0.6	0.05	1.1	0.09
うめ	0.42	1.4	0.59	0.3	0.13	0.6	0.25	1.8	0.76
いちご	0.60	5.4	3.24	7.8	4.68	5.2	3.12	5.9	3.54
茶	3.0	6.6	19.8	1.0	3.0	3.7	11.1	9.4	28.2
その他のスパイス	0.96	0.1	0.10	0.1	0.10	0.1	0.10	0.2	0.19
合計			197		87.2		203		263

注)

- ・残留値は、登録又は申請されている使用時期・使用回数による各試験区のうち平均残留値の最大値を用いた。(参照 別紙3)
- ・「ff」：平成17～19年の国民栄養調査(参照56)の結果に基づく食品摂取量(g/人/日)
- ・「摂取量」：残留値及び食品摂取量から求めたバリダマイシンの推定摂取量(μg/人/日)
- ・『レタス(サラダ菜及びちしやを含む。)』については、レタス、リーフレタス及びサラダ菜のうち残留値の高いリーフレタスの値を用いた。
- ・『その他のスパイス』については、みかん(果皮)の値を用いた。
- ・『茶』については、荒茶の値を用いた。
- ・米、とうもろこし、大豆、ばれいしょ、こんにゃく、いも、てんさい、はくさい、キャベツ、ふき、たまねぎ、にんにく、にら、トマト、きゅうり、しょうが、えだまめ、みかん(果肉)、かぼす、すだち、もも(果肉)は、全て定量限界未満であったため、摂取量の計算に含めていない。

<参照>

- 1 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）の一部を改正する件（平成 17 年 11 月 29 日付、平成 17 年厚生労働省告示第 499 号）
- 2 食品健康影響評価について（平成 28 年 3 月 22 日付け厚生労働省発生食 0322 第 8 号）
- 3 農薬抄録バリダマイシン（殺菌剤）（平成 27 年 3 月 12 日改訂）：住友化学（株）、未公表
- 4 バリダマイシンの作物残留試験成績（未成熟とうもろこし）：（財）日本食品分析センター、平成 21 年度、未公表
- 5 バリダマイシンの作物残留試験成績：（未成熟とうもろこし）（株）化学分析コンサルタント、平成 21 年度、未公表
- 6 バリダマイシンの作物残留試験成績：（だいこん）（財）日本食品分析センター、平成 6 年度、未公表
- 7 バリダマイシンの作物残留試験成績：（だいこん）武田薬品工業（株）、平成 6 年度、未公表
- 8 バリダマイシンの作物残留試験成績：（だいこん）（財）残留農薬研究所、平成 16 年度、未公表
- 9 バリダマイシンの作物残留試験成績：（だいこん）住化武田農薬（株）、平成 16 年度、未公表
- 10 バリダマイシンの作物残留試験成績：（ブロッコリー）（財）日本食品分析センター、平成 22 年度、未公表
- 11 バリダマイシンの作物残留試験成績：（ブロッコリー）住化テクノサービス（株）、平成 22 年度、未公表
- 12 バリダマイシンの作物残留試験成績：（レタス）（財）日本食品分析センター、昭和 51 年度、未公表
- 13 バリダマイシンの作物残留試験成績：（レタス）（株）化学分析コンサルタント、昭和 51 年度、未公表
- 14 バリダマイシンの作物残留試験成績：（リーフレタス）（財）日本食品分析センター、昭和 51 年度、未公表
- 15 バリダマイシンの作物残留試験成績：（サラダ菜）（財）日本食品分析センター、平成 15 年度、未公表
- 16 バリダマイシンの作物残留試験成績：（ねぎ）（財）残留農薬研究所、平成 19 年度、未公表
- 17 バリダマイシンの作物残留試験成績：（ねぎ）（株）化学分析コンサルタント、平成 19 年度、未公表
- 18 バリダマイシンの作物残留試験成績：（ねぎ）（GLP 対応）住化テクノサービス（株）、平成 23 年度、未公表
- 19 バリダマイシンの作物残留試験成績：（にんにく）（財）日本食品分析センター、平成 9 年度、未公表
- 20 バリダマイシンの作物残留試験成績：（にんにく）（株）化学分析コンサルタント、平成 9 年度、未公表
- 21 バリダマイシンの作物残留試験成績：（みつば）（財）日本食品分析センター、平成 16 年度、未公表

- 22 バリダマイシンの作物残留試験成績：（みかん）（財）残留農薬研究所、平成 11 年度、未公表
- 23 バリダマイシンの作物残留試験成績：（みかん）（株）化学分析コンサルタント、平成 11 年度、未公表
- 24 バリダマイシンの作物残留試験成績：（なつみかん）（財）残留農薬研究所、平成 11 年度、未公表
- 25 バリダマイシンの作物残留試験成績：（なつみかん）（株）化学分析コンサルタント、平成 11 年度、未公表
- 26 バリダマイシンの作物残留試験成績：（かぼす）（株）化学分析コンサルタント、平成 11 年度、未公表
- 27 バリダマイシンの作物残留試験成績：（すだち）（株）化学分析コンサルタント、平成 11 年度、未公表
- 28 バリダマイシンの作物残留試験成績：（すもも）（財）日本食品分析センター、平成 15 年度、未公表
- 29 バリダマイシンの作物残留試験成績：（うめ）（財）残留農薬研究所、平成 17 年度、未公表
- 30 バリダマイシンの作物残留試験成績：（うめ）住友化学（株）、平成 17 年度、未公表
- 31 バリダマイシンの作物残留試験成績：（うめ）（財）残留農薬研究所、平成 20 年度、未公表
- 32 バリダマイシンの作物残留試験成績：（うめ）住化テクノサービス（株）、平成 20 年度、未公表
- 33 バリダマイシン原体のビーグル犬を用いた 90 日間反復経口投与試験（GLP 対応）：（株）ボゾリサーチ、2013 年、未公表
- 34 バリダマイシン原体のビーグル犬を用いた 1 年間反復経口投与試験（GLP 対応）：（株）ボゾリサーチ、2013 年、未公表
- 35 代謝物 A の細菌を用いる復帰突然変異試験（GLP 対応）：住友化学(株) 生物科学研究所、2014 年、未公表
- 36 INTERNATIONAL PROGRAMME ON CHEMICAL SAFETY : Environmental Health Criteria 240 : Principles and Methods for the Risk Assessment of Chemicals in Food (2009)
- 37 バリダマイシンの食品健康影響評価に係る提出資料の修正依頼 回答書：住友化学(株)
- 38 農薬抄録バリダマイシン(殺菌剤)(令和元年 11 月 22 日改訂):住友化学(株)、一部公表
- 39 Validamycin TG : Reproduction Toxicity Study in Rats (GLP) : The Institute of Environmental Toxicology、2019 年、未公表
- 40 Validamycin TG : Teratogenicity Study in Rats (GLP) : The Institute of Environmental Toxicology、2019 年、未公表
- 41 食品健康影響評価の結果の通知について（令和 2 年 9 月 29 日付け府食第 631 号）
- 42 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）の一部を改正する件（令和 3 年 8 月 31 日付け令和 3 年厚生労働省告示第 323 号）

- 43 食品健康影響評価について（令和4年7月13日付け厚生労働省発生食0713第4号）
- 44 農薬抄録バリダマイシン（殺菌剤）（令和3年6月10日改訂）：住友化学（株）、一部公表
- 45 バリダマイシンの作物残留試験成績（いちご）（GLP対応）：一般社団法人日本植物防疫協会、2013年、未公表
- 46 バリダマイシンの作物残留試験成績（いちご）（GLP対応）：一般社団法人日本植物防疫協会、2015年、未公表
- 47 バリダマイシンの作物残留試験成績（こんにゃく）（GLP対応）：一般社団法人日本植物防疫協会、2015年、未公表
- 48 バリダマイシンの作物残留試験成績（チンゲンサイ）（GLP対応）：一般社団法人日本植物防疫協会、2013年、未公表
- 49 バリダマイシンの作物残留試験成績（チンゲンサイ）（GLP対応）：一般社団法人日本植物防疫協会、2016年、未公表
- 50 バリダマイシンの作物残留試験成績（ほうれんそう）（GLP対応）：住化テクノサービス株式会社、2019年、未公表
- 51 バリダマイシンの作物残留試験成績（ほうれんそう）（GLP対応）：住化テクノサービス株式会社、2020年、未公表
- 52 バリダマイシンの作物残留試験成績（茶）（GLP対応）：一般社団法人日本植物防疫協会、2017年、未公表
- 53 バリダマイシンの作物残留試験成績（茶）（GLP対応）：一般社団法人日本植物防疫協会、2018年、未公表
- 54 バリダマイシンの作物残留試験成績（茶）（GLP対応）：住化テクノサービス株式会社、2018年、未公表
- 55 バリダマイシンの作物残留試験成績（茶）（GLP対応）：住化テクノサービス株式会社、2019年、未公表
- 56 平成17～19年の食品摂取頻度・摂取量調査（薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会資料、2014年2月20日）